



学校法人南山学園

2021 年度

事業計画書

NANZAN
SCHOOL CORPORATION

目 次

はじめに — 南山学園の基本方針と方向性 —	1
------------------------------	---

学園全体事業計画	10
----------------	----

設置校別事業計画

1. 南山大学	13
---------------	----

2. 南山高等学校・中学校	
(1) 男子部	17
(2) 女子部	22

3. 南山国際高等学校・中学校	28
-----------------------	----

4. 聖霊高等学校・中学校	32
---------------------	----

5. 聖園女学院高等学校・中学校	37
------------------------	----

6. 南山大学附属小学校	41
--------------------	----

7. 聖園女学院附属聖園幼稚園	45
-----------------------	----

8. 聖園女学院附属聖園マリア幼稚園	48
--------------------------	----

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、各単位校の事業計画書に記載している内容から変更となる可能性がありますことを予めご承知おきください。

※ 各単位の項目に記載の★印は、別途作成している「南山学園中期計画（2020年度～2024年度）」において、5年間の間に取り組むこととしている計画として記載されている事項のうち、2021年度において取り組むものであることを示します。

はじめに — 南山学園の基本方針と方向性 —

南山学園は、キリスト教世界観に基づく教育を行い、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成を目指します。この建学の理念を実現するために、ハンス ユーゲン・マルクス前理事長が、2016年4月1日に以下に掲げる基本方針を発表いたしました。この基本方針を継承し、南山学園の全構成員が一丸となって努力していくことを約束いたします。

学校法人 南山学園

理事長 市瀬 英昭

2016年4月1日

職員のみなさん

学校法人 南山学園

理事長 ハンス ユーゲン・マルクス

理事長基本方針

はじめに

教育の課題について、第二ヴァティカン公会議はカトリック教会の考えをこう解き明かしています。「青少年が身体的・道徳的・知的能力を調和のうちに発達させることができるよう援助しなければならない。また彼らが、絶えざる努力を持って自分の生活を正しく生き、勇気と忍耐をもって障害を克服しつつ、真の自由を身につけることによって、徐々により成熟した責任感を養うように援助しなければならない」（『キリスト教的教育に関する宣言』1）。また、「カトリック学校は、他の学校に劣らず、若者の教養と人間形成という目的を追求する」と確認した上で、「カトリック学校の特性は、自由と愛という福音の精神に満たされた雰囲気为学校共同体の中に作り出すことである」（同8）、と力説しています。

南山学園は、2016年4月の法人合併により、幼稚園から大学院までを擁することとなったカトリック系総合学園であり、キリスト教世界観に基づく教育を行い、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成を目指しています。キリスト教世界観の要は、一人ひとりの人

間がまさに一個人としてかけがえのない存在であり、侵すべからざる尊厳をもつ、という考えです。この建学の理念を端的に表現するために、南山学園の各学校はラテン語で Hominis Dignitati、すなわち「人間の尊厳のために」という統一の教育モットーを掲げています。

南山学園がカトリック系総合学園としての教育理念を達成するため、理事長として基本的な方向性を示したものが、この理事長基本方針です。2011年に日本の教育を取り巻く環境変化を踏まえた、新たな理事長基本方針を打ち出しましたが、その後の環境変化はさらに加速度を増しています。一方、南山学園自身も2016年4月1日に学校法人聖園学院との合併を行うなど大きく変化をしています。これらを踏まえ、新たな観点を加えた理事長方針が必要であるとの考えに至りました。

教育を取り巻く環境の変化

2005年の私立学校法改正では、学校法人のガバナンスについて、学校法人経営の観点から理事会、評議員会、監事の役割を定義するとともに、特に監事についてはその機能を強化しました。これ以降、文部科学省は学校法人のガバナンス強化を推進しています。2014年には中央教育審議会の大学分科会において「大学のガバナンス改革の推進について」と題する審議内容が発表され、これに基づいて同年に「学校教育法」の改正が行われました。

大学教育については、2012年に文部科学省から「大学改革実行プラン」が発表され、これに合わせる形で中央教育審議会から学士課程の質的転換を掲げた「大学教育の質的転換」と題する答申が出されました。

小学校・中学校・高等学校の学習指導要領は、「豊かな人間性」「健康・体力」「確かな学力」を総合した力である「生きる力」の育成という理念の下、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視した改訂が行われ、2015年度で全ての学年に行き渡っています。

2014年12月には中央教育審議会から「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革」と題する答申が出されました。これを受ける形で2015年1月には文部科学大臣決定の「高大接続改革プラン」が公表され、センター試験に代わる新テストの検討、大学個別選抜方法の改革に加え、高校、大学における教育改革の施策内容とスケジュールが示されています。

南山学園の基本的な方向性

2011年4月1日付の理事長基本方針では、今後の南山学園の基本的な方向性として、「国際性の涵養」に係る取組みの充実と、「南山大学を中心とした、質の高い学園内教育連携」「地域社会への貢献」の具現化を最重要課題としています。これらについては継続して課

題とします。その実現に向けては、上記の環境変化への対応という観点からも大学がこれまで以上にけん引的役割を担うこととなりますが、その他の各単位校も主体的に臨むことが求められることは言うまでもありません。

今回の基本方針ではこれらに加え、継続する課題をより速く、より適切に実現させることを目的として理事会のガバナンス強化についても最重要課題に加えます。

【南山学園の最重要課題】

- ① 「国際性の涵養」に係る取組みの充実
- ② 「質の高い学園内教育連携」の具現化
- ③ 「地域社会への貢献」の具現化
- ④ 理事会のガバナンス強化

上記①～③の実現のため、各単位校において、南山学園が世間から何を求められているのかを、文部科学省・県関係機関の動向、ならびに南山学園の教育モットー・各単位校の教育方針と照らし合わせながら検討してください。その検討に基づき、各単位校における教育研究活動を点検した上で、その充実を図るものとします。また、南山大学附属小学校および聖園各校を除く各単位校が策定した「20年後の将来像」については、そのビジョンの実現に向けた取組みを継続するものとします。

上記④の実現のため、理事会が適切なガバナンスを行うことができるよう、体制強化のための新たな組織・制度の構築を行うものとします。

各項目の詳細について、以下に述べます。

① 「国際性の涵養」に係る取組みの充実

南山学園の各単位校が、これからも地域はもちろん世界から高い評価・支持を獲得するためには、「国際性の涵養」をより強く意識した教育研究活動を行わなければなりません。世界のどこの地に行き、どのような人と交わるにしても、他者の尊厳を認め、偏見の無い精神で相互の理解と友情を育てることができる国際人の基礎を創ることこそ「国際性の涵養」を説く意図であり、「人間の尊厳のために」を教育モットーとする南山学園の「キリスト教世界観に基づく学校教育」が目指すものだからです。

「国際性」について、2011年の理事長方針作成時には「東海地区の他大学でも国際性を特色とした学部学科が設置され、小・中・高等学校でも国際性を特色とした取組みが実施されている」との認識でしたが、この傾向はさらに強くなっており、日本の多くの学校が「国際化」「グローバル化」を掲げています。このような状況の中、「国際性」について南山学園が他の学校（学園）との差異化を図っていくことは必須となっています。

日本の多くの学校が「国際化」「グローバル化」を掲げているという状況においても、南山学園が行わなければならない、南山学園だからこそできる「国際性の涵養」を意識した教育研究活動とは何なのかを各単位校において改めて検討し、その上ですでに取り組まれている国際教育・国際交流が、現在そして将来にわたって「特色あるもの」と言うにふさわしいかどうかの点検を行う必要があります。点検の結果、その特色がすでに色褪せている、あるいは他の大学、小・中・高等学校の取組みと差異化できない状態であるならば、相当の危機感をもって早急に教育研究活動の改革に乗り出す必要があります。「国際性の涵養」という教育理念を説く意図を十分に理解し、南山学園が行わなければならない、南山学園だからこそできる国際教育・国際交流の取組みを各単位校が責任を持って主体的に創りだしていくことを求めます。

1970年代当時の社会的要請に応える形で設立された南山国際高等学校・中学校は、帰国・外国人生徒教育という形で南山学園の国際教育の一環を担ってきましたが、一学校法人としての社会的な役割の観点、財政上の観点など総合的な判断の結果、2018年度から段階的に生徒募集を停止することとしました。日本社会における国際教育の課題の一つとして帰国・外国人児童生徒教育の問題は依然として存在しています。南山学園においては、南山国際高等学校・中学校のような特別な枠組みではない、「国際性の涵養」をより強く意識した教育研究活動を行っていくこととします。

② 「質の高い学園内教育連携」の具現化

前回の基本方針発表以降、南山学園には新たな変化が生じています。2016年4月1日に学校法人聖園学院との法人合併を行い、聖園女学院高等学校・中学校、聖園女学院附属聖園幼稚園、聖園女学院附属聖園マリア幼稚園が加わりました。また、南山大学は名古屋キャンパスと瀬戸キャンパスを統合し、「One Campus Many Skills」を掲げ、改革を進めています。すでに述べたように南山国際高等学校・中学校は2018年度から段階的に生徒募集の停止を行うこととしました。南山学園はその構成を大きく変えようとしており、そこには新たな学園内教育連携が必要となっています。

「質の高い学園内教育連携」を追究するにあたっては、就学前・初等・中等・高等教育それぞれを終えた卒業生が、様々なフィールドで活躍し貢献する際に南山学園で学んだ成果を十分に発揮できるかが重要となります。それを可能にするものが各単位校間の緊密な連携と相互協力であり、その中心となるのが南山大学です。しかし南山大学のみならず各単位校のすべてが主体的な姿勢で臨むことも必要です。連携を考える場合、一般的には縦のつながりが考えられますが、横のつながりもあることを忘れてはいけません。例えば、高等学校・中学校間においては、教員の見識を広げ専門性を高めるために、一定の人数・期間による人事交流の機会を設けることに加え、教育課程（カリキュラム）を通して生徒の交流を行うことが必要です。また縦の連携については、特に学園内での進学とい

う観点から、小学校・各中学校間および高等学校・大学間における緊密な連携、情報交換が必要となります。

さらに、南山学園で学んだ成果を南山学園全体にもフィードバックさせるという観点から、各学校の同窓会との連携も学園内教育連携の重要な一環です。同窓会の各学校への期待をくみとり、また、同窓会が持つ社会との多様なネットワークを活用することで、南山学園での教育効果をより一層広げていくことが期待できます。

③ 「地域社会への貢献」の具現化

南山学園は教育理念の一つとして「地域社会への奉仕」を掲げています。企業の社会的責任が大きく取り上げられていますが、教育機関も例外ではなく、むしろ企業以上に社会的責任が問われる存在とも言えます。

南山学園ではこれまでも確かな学力と豊かな人間力を身につけ、地域社会のために責任を持ち貢献していくことができる人材の育成を実践してきましたが、日々社会からの期待、要求に対して教育研究活動を通して説明責任を果たしていかなければなりません。すでに、南山大学においては、実務分野との関連性の深い各学部、研究科（理工学研究科、法務研究科、人間関係研究科教育ファシリテーション専攻など）を中心に、産学連携事業を通じて産業界の要望と本学の知識・技術を有機的に結びつけ、より一層高度な専門知識やスキルを身に付けた人材を育成しています。さらに、南山エクステンション・カレッジでは、これまでも生涯学習の場として多くの人々のニーズに合った学びの機会を提供しています。その他にも、例えば、児童・生徒・学生が主体となるボランティアを始めとした奉仕活動を挙げるすることができます。

これらの活動を通して、恒常的に地域社会との教育連携に取り組むことを意識し、活性化しなければなりません。就学前・初等・中等・高等教育に応じてその連携活動の内容も様々ではありますが、各単位校がこれまで以上に積極的に取り組むことで、南山学園全体が社会に貢献し、社会から得られる信頼を糧にして、より質の高い教育を実践することを期待しています。

④ 理事会のガバナンス強化

「国際性の涵養」に係る取組みの充実、「質の高い学園内教育連携」「地域社会への貢献」の具現化を行っていくためには、各単位校独自の努力だけではなく、南山学園としての取組みが必要となります。理事会がリーダーシップを発揮し、各単位校をリードしてだけでなく、各単位校の意思決定は適正か、その決定過程に問題はないか、意思決定されたことが適切に処理されているか、各単位校においてコンプライアンス上の問題はないか、等々のチェック機能も果たさなければなりません。

これらを実行し、南山学園の取組みをより高いレベルのものとするためには、理事会のガバナンス機能をこれまで以上に強化していく必要があります。南山学園は、学園理事会、学内理事会、常務理事会ときめ細やかな理事会運営を行うことにより、これまでも意思決定という点に関しては一定の役割を果たしてきていると評価しています。チェック機能に関しても、定期的な評議員会の開催に加え、監事および監査法人による会計監査、および会計・業務監査制度による内部監査等を行ってきており、一定のチェック機能を果たしてきていると評価していますが、2014年度に南山学園に対して行われました学校法人運営調査委員会による運営調査の結果、「理事会において設置する各学校の進捗管理等に積極的に関与することや、法人としての危機管理体制の強化等、理事会のガバナンス向上のために実効性のある取組みを行うこと」との意見が付されました。これを受け、2015年度から、理事会と各単位校執行部との懇談会を開催し、まずは意思疎通の時間を設けることがはじめられています。また、危機管理体制の強化については、2015年度から危機対応担当理事を置き、各学校での様々な問題への対応を行っています。

しかし、チェック機能の強化という点から、監事制度および内部監査制度の根本的な見直しを行い、先進的で効果的な監査制度を構築することを求めます。

南山学園各単位の方向性

すでに述べたように、南山学園が世間から何を求められているのかを、文部科学省・県関係機関の動向、ならびに南山学園の教育モットー・各単位校の教育方針と照らし合わせながら検討するとともに、各単位校における教育研究活動を点検した上で、その充実を図ってください。また、南山大学附属小学校および聖園各校を除く各単位校が策定した「20年後の将来像」については、そのビジョンの実現に向けた取組みを進め、その上で、今回ここに示す方向性について前向きに受け止めて取組むことを期待します。

南山大学

- ・ 地域に根ざしつつ、日本全国、世界に開かれた大学として、教育・研究・社会貢献を充実させる。その具現化として、学部・学科、研究科・専攻を問わず全ての構成員が、国際社会という大きな舞台での活躍を意識することができるための教育の仕組みを構築する。特に南山大学が行わなければならない、南山大学だからこそできる国際教育・国際交流への取組みを行う。
- ・ 各単位校のけん引的存在であり、財政的にも南山学園の中で大きなウエイトを占めていることを自覚し、学園全体を見据えた上で、事業の中長期計画策定を行う。

南山高等学校・中学校（男子部・女子部）

- ・ 教育の特色「国際的視野の育成」を活かす取組みとともに、恒常的な自己点検・評

価を行う。

- ・ 財政基盤を強化することで、事業の中長期計画の健全化を図る。
- ・ 南山大学、南山大学附属小学校との連携をはじめ、高等学校・中学校間の生徒・教員との交流を深めることで、各単位校が特色を活かし、理解し合う環境を構築する。

南山国際高等学校・中学校

- ・ 最後の卒業生を送り出すまで、在校生の就学環境を損なうことのないよう、理事会および学園内の各単位校と密接な情報共有および協議を行いながら学校運営を行う。

聖霊高等学校・中学校

- ・ 教育の重点目標の一つである「外国語教育」を通して、生徒の国際性を磨く取組みとともに、恒常的な自己点検・評価を行う。
- ・ 財政基盤を強化することで、事業の中長期計画の健全化を図る。
- ・ 南山大学、南山大学附属小学校との連携をはじめ、高等学校・中学校間の生徒・教員との交流を深めることで、各単位校が特色を活かし、理解し合う環境を構築する。
- ・ 生徒を安定して受け入れることができるよう、「選ばれる」「魅力ある」学校づくりに努める。

聖園女学院高等学校・中学校

- ・ 南山学園の一員として、「人間の尊厳のために」という統一の教育モットーを十分に理解したうえで、これまでの校訓の具現化を行う。
- ・ 教育の特色である「国際教育」を通して、生徒の国際性を磨く取組みとともに、恒常的な自己点検・評価を行う。

南山大学附属小学校

- ・ 学園内での進学を視野に入れた質の高い、特色のある教育を行うために、恒常的な自己点検・評価を行い、改善を進める。
- ・ 中等教育での深化が期待できる「南山大学附属小学校ならではの国際教育」を構築するとともに、恒常的な自己点検・評価を行う。
- ・ 財政基盤を強化することで、事業の中長期計画の健全化を図る。

聖園女学院附属聖園幼稚園

- ・ 南山学園の一員として、「人間の尊厳のために」という統一の教育モットーを十分に理解したうえで、これまでの校訓の具現化を行う。
- ・ 教育の特色である「英語指導」を通して、幼児の国際性を磨く取組みとともに、恒常的な自己点検・評価を行う。

聖園女学院附属聖園マリア幼稚園

- ・ 南山学園の一員として、「人間の尊厳のために」という統一の教育モットーを十分に理解したうえで、これまでの校訓の具現化を行う。
- ・ 教育の特色のさらなる深化のため、恒常的な自己点検・評価を行う。

法人事務局

- ・ 理事会をサポートする部門であるとの自覚を持ち、南山学園全体の将来構想、課題を認識した上で、その具体的な方向性の実現に向けて政策立案する機能を高める。
- ・ 南山学園全体の管理業務の中核であるとの自覚を持ち、各単位校の管理業務のけん引役としての機能を高めるとともに、南山学園全体への社会からの期待と責任に応えることができるよう、絶えず自己点検・評価を行う。
- ・ 理事会のガバナンス強化について、その立案・実行・点検・評価を行う。

南山学園の財政基盤確立に向けて

南山学園における財政運営の基本は、これまで通り、各単位が少なくとも当該単位の収支に対する自覚を強く認識していただくことにあります。さらに、繰越消費支出超過額の厳しい予測に対し、建学の理念の具現化を果たしつつ、教育研究活動のさらなる推進を可能とする裏付けとして、各単位の「財政の健全化」が不可欠であることには変わりはありません。

2008年度の経済社会の激変に伴い発生した南山学園の資産運用問題による多額の繰越消費支出超過額をどのように改善していくかについては、理事会と法人事務局の責任において検討し実施しておりますが、これは各単位校が将来計画を踏まえ、より健全な収支を維持することが当然の前提です。各単位校が適切な幼児・児童・生徒・学生を安定的に確保し、かつ教育研究活動への取組みに一層努力することで得られる高い社会的評価をもって厳しい財政状況を乗り切ることができ、健全な財政基盤が確立できるものと確信しております。

おわりに

はじめに述べたように、南山学園は、「キリスト教世界観に基づく教育を行ない、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成」を建学の理念としています。カトリック学校における教育はかけがえのない一人ひとりに神から固有に与えられた力を十全に引き出し、開花させることを目指しています。そのような教育の現場では、各自の個性が最大限に尊重される一方、各自が「共通善」を推進し、快く他者と協力する姿勢が涵養されていくのです。

学園の構成員一人ひとりがこれらのことを十分に理解した上で、理事長基本方針にある課題の解決に努める必要があります。

南山学園が幼児・児童・生徒・学生の人格形成を推進し、確かな学力と豊かな人間力を身につけた人材の育成を通じて社会に貢献し続けていくために、構成員一人ひとりが何をしなければならないかを主体的に考え、互いに協力しながら、一層尽力することを期待します。

以 上

2021年度事業計画（学園全体）

I. 2021年度事業計画の概要

2021年度は、従来の法人事務局と大学総務部の統合を中心に、大学本部と経営本部として新しい事務組織がスタートします。この事務部門の変化が、南山学園全体の運営の効率化や学園内連携の向上等に資するものとなり、各種事業がスムーズに実施されていくことが最も重要な課題です。また、公共性の高い学校法人として、法令遵守はもちろんのこと、危機管理体制の向上や、教育のみならず校務運営のICT化など、重要な事項に対応し、社会の変化や要請にこたえ、「信頼され、選ばれる学園」となるための事業を推進してまいります。

2021年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・災害発生後のBCP（事業継続計画）の策定作業を行います。
- ・学園共通Web受付フォームや事務における電子決裁システムの導入等のICT化をすすめます。
- ・南山国際高等学校・中学校閉校にかかる手続き等に取り掛かります。

2021年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・理事会のガバナンス向上に向けた事務組織の見直しを行います。
- ・各種計画の実施状況の点検・評価に通じた学園運営のブラッシュアップと計画の実行を図ります。
- ・校舎等の非構造部材の点検を行い、耐震対策をさらにすすめます。
- ・学園財政の健全な運営のための資産運用および財政計画の立案を行います。

II. 新規事業

1. 学園全体

(1) BCP（事業継続計画）の策定作業の実施 ★

2018年度・2019年度において実施された内部監査結果に基づき、2020年度において学園としてのBCP（事業継続計画）の策定の必要性が課題とされました。2021年度においては、外部のコンサルティングを受けることも視野に入れ、具体的なBCP策定作業をすすめます。

2. 施設・設備

(1) 学園共通Web受付フォームの運用開始

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により各単位校で行われる対外的行事が、事前申込制の導入、参加登録者に対する動画配信やWebイベント等といった実施方法へ変化しています。現在、南山大学ではWeb受付フォームを運用して受付事務を行っていますが、他の単位校では外部のWeb申込ツールの利用や、メール・電話での受付対応をしているため、新たに学園全体で利用できるWeb受付フォームを学園内サーバ上に設置し、運用を開始します。個人情報取得における情報管理のセキュリティを高め、またスマートフォン等からもアクセスできるようにして、利用者の安全性を高め、利便性と事務の効率をすすめます。

3. その他

(1) 文書関係規程の整理および検討

南山学園の設置校で定められている文書およびその保存に係る規程を、統一したルールで整理します。また、文書処理業務の効率化と信頼性を高めることを目標として、南山学園の事務組織で処理する文書の扱いおよび保存方法を明確化し、正確かつ合理的な情報管理を行います。

(2) 南山学園電子決裁システムの導入 ★

事務執行に係る意思決定の迅速性および正確性を高め、ペーパーレス化を推進することを目標とし

て、南山学園のすべての設置校において電子決裁システムを導入し、業務の効率化をすすめます。

(3) 南山国際高等学校・中学校の閉校に向けた準備

2023年3月31日をもって閉校する南山国際高等学校・中学校に係る校地・校舎の取扱い等の諸課題について検討を行い、事務手続きをすすめます。

Ⅲ. 継続事業

1. 学園全体

(1) 理事会のガバナンス強化に向けた総合企画室業務・組織改編の検討 ★

2021年4月に法人事務局と大学総務部の事務組織統合を行いました。実際に業務を遂行する中で新たに発生する課題への対応を継続して行い、業務の効率化と事務体制のスリム化を図ります。また、ピオ十一世館に残る総合企画室の業務についても、昨今の学校法人運営のガバナンス強化、内部統制機能の充実等が求められている観点から、それらの要請に応えるために理事会機能の充実等必要な事項を検討し、それに沿って総合企画室の業務・組織改編を引き続き検討します。

(2) 南山学園中期計画の実行と評価 ★

2020年4月に改正私立学校法が施行され、2020年度から2024年度の5年間で計画期間とした「南山学園中期計画」を新たに策定し、実行を始めましたが、計画1年度目の評価について、評価の在り方や方法を含めて検討のうえ実行し、2年度目以降の計画の履行に反映させます。

(3) 「私立大学版ガバナンス・コード」に基づく対応

本学園の自律的で意欲的なガバナンス改善や経営の強化、情報公開等の促進を行うための自主行動基準として「南山学園ガバナンス・コード」を2020年4月に策定し、学園運営の指針を明示しました。2021年度は、策定したガバナンス・コードの履行状況の点検を行います。点検により現在の状況を客観的に把握し、共有することを通じて学園運営のさらなる健全化をすすめます。

2. 広報活動

(1) 学園広報活動 ★

2019年度から実施している各設置校合同での進学相談会「トワイライト合同相談会」を継続して実施します。2021年度は、これまでの実績を踏まえ、来場者の利便性を高めるため、開催場所の変更を行う予定です。さらに、聖園各校の関わり方も工夫し、学園の一体感を活かした、実効性のある広報活動を展開します。また、中期計画に定めた学園の戦略的広報の再構築のために、広告掲出等については、学園のブランド・イメージの向上に資する媒体を検討し、新聞広告に限らない効果的な広告掲出・広報計画の策定に取り組みます。加えて、学園を知っていただくためのツールとしての「学園総合案内誌」と「学園概要」の在り方について、統合を含めて見直します。

3. 施設・設備

(1) PCB 廃棄物の処分 ★

2016年度からPCB廃棄物の処分を開始しました。2019年度からは高濃度PCB廃棄物である蛍光灯安定器の処分を3年計画で実施しており2021年度に処分が完了します。

(2) 校舎の耐震対策 ★

学園内各校校舎の耐震補強工事は既に完了し、非構造部材の耐震対策を順次対応しているところです。2021年度は、より安全な建物を目指し、専門家による非構造部材を中心とした建物点検を実施します。

(3) 遊休資産等の活用と処分 ★

南山学園が所有する遊休資産等については、多角的に活用方法を検討するとともに、将来的に活用の見込みのない土地については処分を含めた提案をします。

(4) 聖園女学院高等学校・中学校正門前土地問題

国道 467 号線との境界が明確ではなかった聖園女学院高等学校・中学校正門前の土地については神奈川県と確認をすすめています。2021 年度は引き続き神奈川県に働きかけ、測量に基づいた土地の確定作業をすすめます。

4. 財務

(1) 有価証券運用の取り組み ★

財政基盤を健全かつ強固なものにするため、南山学園が現在保有する有価証券の運用状況に加え、将来獲得を見込むことができる収入額と利回りを適切に把握します。また、資産運用におけるリスクを十分に考慮しつつ、得ることができる収入を確実なものとする運用方法を継続的に検討します。

(2) 財政改善に向けた取り組み

南山学園が未来永劫発展していくため、各設置校の財政状況を正確に把握した上で、中・長期的な視点から財政改善方を検討していきます。とりわけ、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応に備え、通常の教育・研究活動の継続に必要な支払資金のみならず、緊急的対応に耐えうる支払資金の額を確保した上で、適切な事業に適切な金額を投下します。

5. その他

(1) 2021 年度事務職員等研修の実施

① 「人事考課」研修の実施

人事考課の目的や評価者の役割・責任を再確認し、公正で納得感の高い評価を行う上での留意点や面談の具体的な手法（フィードバックやコーチング等）を習得する研修を管理・監督職を対象として実施します。

② 「事務ミス防止」研修の実施

事務ミスの防止に必要なことはルール化やチェック体制づくりであることを理解・認識し、職場で実際に発生するミスの洗い出しやその対応策を考える演習を中心とした研修を一般職・嘱託職員を対象として実施します。

③ 「クレーム対応」研修の実施

学生・生徒等や保護者の立場に立って相手の言い分を聴くことの重要性を学び、クレーム対応スキルの修得を図る研修を一般職・専任嘱託職員と管理・監督職に分けて実施します。前者はクレーム対応の基本手順を学び現場で即役立つ実践力を身につけることを、後者はより困難なクレームを解決するための判断力・適応力・交渉力の習得を目指します。

以 上

2021年度南山大学事業計画

I. 2021年度事業計画の概要

2021年9月に大学創立75周年を迎えるにあたり、各種の記念事業を実施します。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を徹底し、学生や教職員が安心して教育・研究に取り組める環境を整えます。南山大学の建学の理念、および「人間の尊厳のために」という教育モットーに立ち返り、2020年度から掲げているキーワード「地球規模の関心、私たちの貢献」を心に刻んで、大学としての使命を果たしていきます。

2021年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・「南山大学『人間の尊厳』賞（仮称）」の創設
- ・「ライネルス中央図書館構想（仮称）」の募金事業の開始
- ・大学院理工学研究科データサイエンス専攻の設置検討
- ・学部・大学院での交換留学生の受け入れと外国人留学生別科の新プログラムの開始
- ・新しい国際学生宿舎を拠点にした国際交流の活性化
- ・100分授業の導入

2021年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・創立75周年記念各種事業
- ・ハラスメント相談体制の見直し
- ・オープンアクセス化の推進
- ・COIL型授業の強化
- ・国際的な大学間連携のさらなる推進
- ・「大学の世界展開力強化事業」等の外部資金獲得による国際化の継続
- ・Nanzan International Certificateの発展・強化
- ・認証評価を踏まえた改善計画の策定と実行
- ・外部研究資金の獲得に向けた継続的な取り組み
- ・コロナ禍における就職活動支援
- ・地域連携の促進と取り組みの強化
- ・オンラインを活用した戦略的な入試広報活動の実施
- ・大学院の受け入れ体制の拡充
- ・安定的な財政基盤の構築

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 「南山大学『人間の尊厳』賞（仮称）」の創設

75周年を機に、「南山大学『人間の尊厳』賞（仮称）」が創設され、「人間の尊厳のために」という南山大学の教育モットーの実現に貢献された方々を表彰することになりました。これを価値あるものとするために、幅広く社会に候補者を求め、適切な選考基準を定めるべく準備を進めていきます。

(2) 「ライネルス中央図書館構想（仮称）」の募金事業の開始

図書館は本学の構成員にとどまらず、学園内の中高校生や地域社会の人々の利用に供する機会が増えています。75周年を記念した図書館リニューアル事業である「ライネルス中央図書館構想（仮称）」の実現に向けて、2021年4月から5年間の予定で寄附金を募ります。パッヘスクエア、フラッテンホールに続

き、南山学園創設者であるヨゼフ・ライネルス神父 (Fr. Joseph Reiners) の名を冠することで、カトリック神言修道会を母体とする本学の歴史を在学生や地域社会に広く周知する事業です。

2. 教育・研究

(1) 大学院理工学研究科データサイエンス専攻の設置検討

2021 年度より理工学部は改組再編され、「データサイエンス学科」、「電子情報工学科」、「機械システム工学科」の 3 学科を新設し、既設の「ソフトウェア工学科」と合わせて 4 学科構成となります。社会的要請が大きい学問領域であるデータサイエンスについては、学部生および大学院生に対する教育が最大限の成果を生むような、理工学研究科データサイエンス専攻の設置構想を検討していきます。

(2) 学部・大学院での交換留学生の受け入れと外国人留学生別科の新プログラムの開始

多様化する日本語学習者や留学のニーズに応え、また新たな協定校を開拓するために、2021 年 9 月、学部・大学院で交換留学生の受け入れをはじめるとともに外国人留学生別科が改組され、既存の Intensive Japanese Program (以下 IJP) (定員 120 名) に加えて、Modern Japan Program (以下 MJP) (定員 45 名) が開始されます。IJP が日本語を集中的に学習したい学生を対象としたプログラムであるのに対して、MJP は基本的な日本語を勉強しながら、日本人学生とともに質の高い英語で開講される日本事情科目を履修するプログラムです。

(3) 新しい国際学生宿舎を拠点にした国際交流の活性化

2022 年 2 月に竣工予定の新しい国際学生宿舎は、神言修道会の創設者アーノルド・ヤンセン (St. Arnold Janssen) 神父の名前を掲げ、「南山大学ヤンセン国際寮 (Nanzan University Janssen International Residence)」とします。また宿舎内に居住する全学生を対象とし、留学生と日本人が協働して実施できるようなプログラムをつくります。国際センターの下、ヤンセン国際寮アドバイザー (仮称) やレジデント・アシスタントを置いて、参加者への助言、評価やフィードバックを行うことで、教育プログラムとしての質を保証します。

(4) 100 分授業の導入

2021 年度から 100 分授業が導入されます。これによって、1 つの科目は原則として 14 回となり、余裕のある学年暦となりますので、学生が短期留学やインターンシップ活動、正課外活動等に参加する機会や、教員が調査研究活動に従事する時間に充てるなど有効活用を図っていきます。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 創立 75 周年記念各種事業

2021 年 9 月に大学創立 75 周年を迎えるにあたり、創立 75 周年プロジェクト実行委員会が設置され、2020 年 9 月より各種事業が開始されましたが、コロナ禍の影響もあり一部の事業では延期や規模の縮小を余儀なくされました。2021 年度も引き続き、連続講演会、特設 Web ページを通じた広報展開、学内装飾・グッズ制作等を実施します。また総勢 200 余名の執筆者による『南山大学 75 年史』の刊行に向けた編纂事業に取り組みます。

(2) ハラスメント相談体制の見直し

本学はかねてよりハラスメント問題への組織的な対応を図ってきました。近年では、相談の種類が複雑化しており、また 2020 年 6 月より、職場におけるハラスメント防止対策の強化が法令上定められることにもなりました。こうした状況に対応するため、ハラスメント相談体制をより充実化し、事案の整理と適切なアドバイスができる仕組みを構築していきます。

2. 教育・研究

(1) オープンアクセス化の推進

本学は2020年度に「南山大学オープンアクセス方針」を策定しました。この方針は、研究成果に対する学内外からの自由な閲覧を保証することにより、学術研究のさらなる発展に寄与するとともに、情報公開の推進、社会に対する説明責任と研究成果の社会への有効かつ積極的な還元を果たすために定められました。学位論文はすでに公開していますが、過去の紀要論文等の研究成果についても幅広くオープン化できるように取り組んでいきます。

(2) COIL 型授業の強化

2020年度はコロナ禍にあって、世界中で移動が著しく制限されました。その点、本学は、2018年度に採択された「大学の世界展開力強化事業～COIL 型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～」の取り組みを通じて、活発な国際交流を維持しました。今後もこの取り組みをさらに発展させていきます。特に、2022年度までに、COIL 型授業数を48科目とする目標を掲げており、その達成に向けて、各学部・研究科で積極的にCOIL 型授業を導入していきます。

(3) 国際的な大学間連携のさらなる推進

学生交流協定を締結した海外の大学・機関は2020年度末の時点で33カ国・地域で115大学となりました。2015年度に策定された「南山大学国際化ビジョン」では、グランドデザイン完成年度である2027年度までに約130大学との協定を目指しています。今後も積極的に交流協定校の開拓に努めていきます。

(4) 「大学の世界展開力強化事業」等の外部資金獲得による国際化の継続

上智大学と協同で実施してきた「大学の世界展開力強化事業（中南米）」（LAP : Sophia-Nanzan Latin America Program）は2019年度に終了しましたが、文部科学省よりきわめて高い評価結果を受けました。LAPで作り上げたプラットフォームは、外国人留学生別科サマープログラムにも、LAP (Late August Pre-sessional) コースとして継続されています。今後も、「大学の世界展開力強化事業」等の新たな外部資金獲得によって国際化を進めていきます。

(5) Nanzan International Certificate の発展・強化

本学では、経済学や政治学など、国際科目群と呼ばれる英語で学べる授業が約70科目あります。これらの科目から24単位以上修得すると、本学で国際力を身に着けた証として、Nanzan International Certificate が発行されています。これまで教務課を中心に取り組んできましたが、各学部・国際センター等とも連携して、国際力の涵養に資する授業履修や留学経験、課外活動参加なども発行基準に取り入れるなど、学生にとってNanzan International Certificate がより魅力的なものになるよう制度の一層の強化と充実化を図っていきます。

(6) 認証評価を踏まえた改善計画の策定と実行

本学は、2020年度に大学基準協会の認証評価を受審しました。その結果は肯定的な評価でしたが、いくつかの改善課題も提示されましたので、内部質保証委員会が中心となって改善計画を策定し、大学基準協会に改善報告書を提出することになる2024年に向けて改革に取り組んでいきます。

(7) 外部研究資金の獲得に向けた継続的な取り組み

科研費をはじめとする外部研究資金は、充実した研究を遂行するために必要不可欠な基盤です。2021年度も引き続き積極的な獲得を目指していきます。とくに、学内外の様々な研究者や機関と連携して、社会的な要請に応える学際的な研究プロジェクトの拠点となるよう努めていきます。

(8) コロナ禍における就職活動支援

昨年は就職活動が本格化する時期にコロナ禍による緊急事態宣言が発令され、学生の就職活動およびキャリア支援室による学生指導やサポートに大きな制約が生じました。2021年度も厳しい状況が続くと予想されますので、オンラインの有効活用を含めて、学生の就職活動を効果的に支援する方法を

検討していきます。

3. 社会貢献

(1) 地域連携の促進と取り組みの強化

本学はこれまでの国内外の研究機関、産業界や地方自治体といった様々なステークホルダーとの共生・協働に努めてきました。2017年度に発足した南山チャレンジプロジェクトでは、2020年度から「産学連携企画」がはじまり、同窓生が社長を務める家田製菓株式会社との連携によってエチオピアにゆかりのある食材等を用いた「ボン菓子」の開発・販売に取り組んでいます。また名古屋税理士会との連携で2021年度から新たに寄附講座が開かれることになっています。

大学間の連携では、大学院法務研究科が2021年度に名古屋大学法学研究科と共同開講科目を設置します。また本学は日本カトリック大学連盟の会長校であり、アジア・キリスト教大学協会（ACUCA）の日本代表理事にも就任していますが、さらに東南・東アジアカトリック大学連盟（ASEACCU）や国際カトリック大学連盟（IFCU）などを通じて、世界のキリスト教系大学との連携を深めていきます。

南山学園は2008年度に「南山学園環境宣言」を発表し、早くから環境問題に注目してきました。これからも本学の研究・教育活動を通じて、その理念を実現するために成し得ることを考えていきます。

4. その他

(1) オンラインを活用した戦略的な入試広報活動の実施

2020年度の入試広報活動は、コロナ禍によって大きく制限されました。2021年度においてもコロナ禍の収束がすぐには期待できないことから、オンラインを活用した効果的な入試広報活動を検討し、積極的に実施していきます。

2020年度末には「大学戦略広報ワーキンググループ」の最終報告書が提出され、課室間の連携や情報共有による柔軟な予算執行、業務のスリム化や作業の効率化などの成果が確認されました。また、これまで曖昧だった大学広報と入試広報の区分が明確化されました。同報告書の提言を踏まえ、これからも課室間の連携を緊密にしながら大学全体の広報活動を積極的に進めていきます。

(2) 大学院の受け入れ体制の拡充

大学院各研究科では、学内の研究科・研究所・研究センターはもちろん、学外のさまざまな機関との連携を一層強化しながら、研究を通して新たな社会的課題に対する関心を高め、課題解決に貢献できる人材を幅広く育成していく必要があります。そのため、学部からの進学者はもちろん、留学生や社会人の受け入れに積極的に取り組みます。また、既に一部の研究科で実施される学部早期卒業生の受け入れや、社会人学生を科目等履修生として受け入れ、博士前期課程を1年で修了させる仕組みなどについても検討を始めます。

(3) 安定的な財政基盤の構築

2017年度のキャンパス統合にともなうレーモンド・リノベーション・プロジェクトは2020年度をもって無事に完了しました。本学の魅力を維持・向上させるためには、安定的な財政基盤を構築し、今後も教育・研究の充実を図ることが不可欠です。2021年度には、学生納付金が改定されます。これに加えて、入学定員の充足に努めながら、支出削減・学納金改定検討小委員会で支出削減などの方策を継続して検討し、その検討結果を確実に実施していきます。また、寄附金についても、その多様化と卒業生・企業などへの有効な周知方法について検討を進めていきます。

以上

2021年度南山高等学校・中学校（男子部）事業計画

I. 2021年度事業計画の概要

学園のモットーである「人間の尊厳のために」を日々の教育活動の中で具現化できるように、「地の塩、世の光」の聖書のみ言葉を深く理解し、国際的視野を持ち、人類愛を実践できる人材の育成に努めます。「新学習指導要領」実施と「高大接続改革」という社会の変化に対応し、生徒たちの学習意欲、キャリア意識を高め、コミュニケーション能力を涵養し、総合的な学力を培います。

2021年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・可動式電子黒板を普通教室すべてに配置し、Wi-Fiも完備します。さらに生徒が1人1台の端末を持ち、各種活動においてICTを活用できるような環境を整備します。
- ・コロナ禍において、学校生活における部活動・行事等の従来通りの実施を目指しつつも、それらの点検修正を行いながら実現可能な活動を行います。

2021年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・昨年度稼働した統合型校務支援システムの整備点検を行います。
- ・昨年度設置した勤怠管理システムにて労働時間の適正な把握をします。
- ・中長期を見通した将来構想の策定をします。
- ・聖書に基づく価値観の育成・宗教心を涵養します。
- ・「新学習指導要領」と「高大接続改革」への対応を行います。
- ・スクール・カウンセラーと連携した精神的なストレスを抱えた生徒へのケア、サポートをします。
- ・非常時における危機管理体制、および保護者との連携の確立に努めます。
- ・「高大接続改革」を見据えた6ヵ年一貫の体系的な進路と進学を支援します。
- ・『部活動ガイドライン』を作成し部活動の充実を図ります。
- ・「国際的視野の育成」を目指す3つを海外研修の充実を目指します。
- ・学園内単位校との連携を踏まえた広報活動の充実を目指します。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) コロナ禍における点検

学校生活における授業・部活動・各種行事等の点検を行い、修正を行いながら実現可能な活動に取り組みます。

2. 施設・設備

(1) 可動式電子黒板の全ての普通教室への設置

教育のICT化に向けた環境整備の一環として、2018年度から電子黒板を順次購入し、教育的効果の検証を行ってきました。2021年度には全教室に電子黒板を配置し、Wi-Fiも完備します。さらに、2023～2024年度を目途に生徒が1人1台の端末を持ち、授業や家庭学習といった学習活動をはじめ、各行事・生徒会活動・部活動などでもICTを活用できるような環境を整備します。これによって、すでに導入されている校内ICT環境や生徒アカウントを引き続き利用しながら、より一層の活用ができるような環境を作ることができます。そのために、主としてICT活用検討委員会で導入済みのICT環境の利活用に加えて、端末の利活用方法および端末の種類などの検討を進めます。これによって、授業をする側の教員も受ける側の生徒も満足度の高いものになると期待されます。さらに教育用ソフトウェア(SKYMENU)の整備拡充を行い、デバイスの利用についても検討します。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 中長期を見通した将来構想の策定

「将来構想委員会」を中心として、生徒の優れた才能を発見してその個性を伸長できるように、「生徒に求めるべき学力」と「教科教育力の向上」について議論しています。その合意を基準として各教員が自覚と責任を持って自らの教育実践を見直します。中学校の卒業生 200 名がそのまま高等学校に進学することで、6 年間の計画的・継続的な教育指導が展開でき、ゆとりを持った効果的な一貫教育が可能です。また、カトリック学校としての男子部の使命、学園内他単位との連携、南山大学附属小学校との教育の接続、財政見通し等、内的刷新が図れるよう将来計画を議論、策定します。

(2) 聖書に基づく価値観の育成・宗教心の涵養

宗教の授業は、人間にとって大切な事は何か、何を目指して生きていけばいいのか、心を豊かにするための時間であり、カトリック学校として何より大切にしています。中学校では最初に男子部の歴史を学び、南山をよく知ると同時に、母校を愛する人物の育成を目指します。また高等学校では古今東西の世界の思想を学び、より広い視野の育成に資するよう、聖書に基づく価値観と宗教心を涵養します。

(3) 新学習指導要領・高大接続改革への対応

生徒が希望する進路を実現できるように、本校独自のカリキュラムを精査、検討します。新学習指導要領と高大接続・大学教育・大学入学者選抜改革に対する研修会やセミナーでの情報収集をもとに、調査書や指導要録の精緻化と簡素化という相反する議論にも対応できるよう、生徒の基本情報や活動歴等の記録を容易にするシステム作りを継続します。

(4) 教職員の研修・研鑽・自己点検

『カトリック学校における教職員の役割』、『男子校での宗教教育』等のテーマで、カトリック学校の教員に相応しい研修・研鑽・自己点検の機会を設けています。また経験年数の異なる教員同士での話し合いを通して、各教科の教授法や生徒の生活指導、部活動の指導法、学年・学校行事の対応などについて、教育力の向上を目指しています。

(5) スクールカウンセラー (SC) との連携による生徒へのサポート

週に 4 日間、2 名の臨床心理士の資格を持った SC が相談室を開室し、心のケアの必要な生徒および保護者が利用しています。SC は個人情報を守りつつ、該当生徒の担任・学年・カウンセリング委員会と密接かつ迅速な連携によって生徒をサポートします。

(6) 危機管理体制

非常事態発生時には、情報システム委員会や Web ページ委員会と連携し、メール配信と Web ページ等で生徒・保護者に連絡します。授業中だけでなく生徒の登下校時等、様々な状況下での避難訓練に加え、毎年新学期に「防災用資料」を記入させ、非常事態発生時の対応を周知徹底しています。南海トラフ地震や火災等、自然災害を想定し、非常事態用の食料・日用品・簡易トイレ等を備蓄・管理しています。

(7) 保護者・在校生・卒業生・外部向け Web ページの拡充

保護者・在校生・卒業生だけでなく、男子部に興味・関心のある方々に向けての情報発信をさらに充実させていきます。フェイスブックでは学校生活の様子を写真とともに英文・和文の解説付きで発信しています。大学入試合格一覧や部活動のページの更新も随時行っています。保護者・在校生へは緊急のお知らせだけでなく、学校行事や学年行事、部活動などの情報を、また卒業生に対しては再受験や各種証明書等の情報を提供しています。

(8) 植栽の検討 ★

2019 年度は校門から聖堂周辺にかけて、桜・ツツジ等の植栽を行いました。今後も緑溢れるキャンパ

スを目指し、四季を通じて生徒や教職員、来校者の癒しの場となるよう植栽を実施します。緑化を推進するとともに、「八事の森のミッションスクール」として自然環境の教育にも力を注ぎます。

2. 教育・研究

(1) 図書館の充実

校内で最もアクセスのよい図書館は、「知の拠点」として日曜日を除いて毎日開館しています。すでに5万冊以上の蔵書がありますが、生徒の希望図書を積極的に購入し、将来的には6万冊に達する予定です。世界遺産のDVDやクラシック音楽のCDなど視聴覚資料も充実しており、英検やTOEFL等の語学教材の閲覧も可能です。またPCでの検索閲覧コーナーや、DVD等が利用できるメディアコーナーや、外の樹木や草花を眺めながら学習できる読書カウンター、60席の閲覧テーブルが配置され、自学自習の場になっています。館内の一番奥には1クラスの授業が行える学習室があり、調べ学習にも適しています。

※ 以下〔(2)～(8)〕は新型コロナウイルスの状況が改善された場合です。状況に応じて、中止・縮小・代替措置等を随時検討します。

(2) 6ヵ年の体系的な進路・進学支援

- [1] 中1～中3「中学生のキャリア教育」：中1で「市内探訪」、中2で「職業体験」、そして中3で養護施設や障がい者施設での「福祉体験」を実施します。
- [2] 高1「オリエンテーション合宿」：1泊2日の行程で京都にて実施します。1日目は各部長の講話や社会人講話を聴き、2日目は京都市内の大学を見学します。
- [3] 高1・高2「進路の日」：進路を具体的・主体的に考えるように、社会人やOBの現役大学生など、様々な方による講演会を実施します。
- [4] 高2「総合講座」：全国10数大学の大学教員による1講座90分の模擬授業を、自身の興味関心に沿って午前・午後の2講座受講します。
- [5] 高1～高3「大学説明会」：全国10数大学の入試課の方から、各大学の特色や最新の入試情報等についての説明を受けます。
- [6] 高1～高3「南山大学学園内オープンキャンパス」：南山大学にて、男子部・女子部・国際校・聖霊・聖園女学院の学園内単位校合同で各学部学科の説明を受け、模擬授業も受講します。また南山大学在学中のOBによる大学生活紹介もあります。
- [7] 高1～高3「進路調査」：志望大学や志望学問だけでなく、学習時間や学習意欲等のアンケート調査を実施し、その結果の分析・検証を面談等に活用しています。
- [8] 高2「大学受験報告会」：大学受験を終えた高3生に、高2生に対してエールを込めて受験体験談を語ってもらいます。
- [9] 高1～高3「外部模試」：高校の各学年で年間2回以上外部模試を受験し、その結果の分析・検証を進路指導に役立てています。

(3) 生活指導

「安全・健康・美化」のテーマに沿って、主体的に生活実践できる生徒の育成に努めます。始業式や終業式の式典後に生徒への情報提供をし、明確な指導方針を提示していきます。また合同ホームルームや講演会を開催し、自転車通学者に対する交通安全や学校内外での携帯電話の取扱い方等、その問題点を認識させ対処法を学ばせます。

(4) 生徒の自治活動と社会貢献

生徒自治会の自発的・積極的な活動は、一人ひとりの生徒にとって有意義なものとなっています。9月の文化祭と体育祭、3月のスポーツ大会、児童養護施設の子どもたちを招待する2月のスプリングカー

ニバル、文化行事等の一層の充実を目指します。2021年度の文化行事は、中・高共に東京から劇団を招き、演劇を学園講堂で上演する予定です。文化祭は展示の更なる充実や全体運営の向上が期待されます。生徒議会と各委員会は、学内環境の充実と美化、講演会等の文化活動、機関紙『南窓』の発行、3校（男子部・女子部・中京大学附属中京高校）合同地域活動、他校との交流・連携活動を日常的に取り組みます。

(5) 部活動

部活動は自主性・創造性、他人を思いやることのできる人間の育成を目指します。心身ともに健康で安全な部活動が継続できるよう、事故防止の対策・啓発として、熱中症対策・AED講習会等も開催しています。運動部では、バスケットボール・野球・ソフトテニス・硬式テニス・陸上・卓球・水泳・サッカー・ラグビー・柔道・アメリカンフットボール・バドミントン・剣道、各部が活発に活動しています。文化部では将棋部が幾度かの全国大会への出場経験をはじめ、ブラスバンド部も個人の部門での全国出場や、写真部等々が外部の大会や発表会に積極的に参加しています。なお、ブラスバンド部は女子部器楽部との合同コンサートを毎年開催しています。

(6) オーストラリア研修、ニュージーランド・ターム留学およびイタリア・キリスト教文化研修

「国際的視野の育成」の観点から2つの海外語学研修を実施します。『オーストラリア研修』では、約3週間、ホームステイ先と学校の2つの場で英語を使い学びながら、現地の文化や人々の考え方に触れ、多様な考え方を身につけます。「ニュージーランド・ターム留学」では、約3ヵ月間現地生活を送ることでツールとしての英語を身につけます。どちらのプログラムも、研修中に学んだことが南山での学校生活、そしてその後の人生において大きな果実となるよう、内容の充実を図ります。

『イタリア・キリスト教文化研修』は18回目を迎えました。年末の8日間、クリスマスを祝うサンピエトロ大聖堂のローマ、聖フランチェスコのアッシジ、フィレンツェ、ピサ、ミラノを訪れます。レオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晚餐』で有名なサンタ・マリア・デッレ・グラッチェ教会やウフィツィー美術館、その他世界遺産となっている史跡を、教会のミサに参加しながら研修します。

(7) 広報活動の充実

日常的な教育活動を広く理解してもらい、多くの児童およびその保護者に本校への入学を希望していただくために、春・秋・冬に開催される本校主催の説明会や体験授業を中心とした広報イベントをより充実させていきます。また、新校舎完成を機に始めた塾団体等を招いての学校紹介を継続するとともに、フェイスブックやWebページの満足度を高めることで、本校の教育に関する理解を広めていきます。さらに、中学校受験志望者の裾野を広げることで本校の志願者を増やすため、私学協会を核にしたPR活動、イベント、学習塾などが実施する説明会などでの内容を充実させます。2021年度も、学園広報委員会の手助けも受けながら学園内他単位との連携による説明会を実施します。

(8) 南山大学・学園内他単位・南山大学附属小学校との連携推進

学園内高等学校・中学校とは部活動・生徒会活動において活発な交流を展開しています。また南山大学とは、大学説明会・オープンキャンパス等への参加に加え、様々な部活動での大学の施設借用、社会科や英語科の授業における大学留学生別科の学生による講義など、高大連携を積極的に進めています。さらに、南山大学附属小学校とは、小学校が行っている「特別支援教育連続講座」の会場を提供したり、研究会「真教育」へも将来構想委員会を中心に参加しました。児童生徒間ではブラスバンド部の演奏会を開催し、交流を継続しています。今後も幼稚園から大学までを有する総合学園の理念に基づき、より充実した環境を提供します。

3. その他

(1) 学園内単位校における教職員の人事交流 ★

学園内単位校との人事交流に努め、より良い実践を共有することで活性化に繋げていきます。特に同じ教科の教師が協働することで、「教科教育力」の向上を図ります。

(2) 専任教員枠の検討 ★

6 ヶ年一貫教育を体系的に推し進めていくために、国際校からの移籍による専任教員数増加に伴う校務分掌の適正配置を検討し、学習面だけでなく生活面でも生徒を支援します。

(3) 財政状況にかかる検討 ★

財政状況の改善に向けて2018年度より学納金改定を行いました。さらに補助金の獲得に努め、教育環境を低下させることのないようにしながら、支出削減などに向けて検討を進めます。

以 上

2021年度南山高等学校・中学校（女子部）事業計画

I. 2021年度事業計画の概要

大学入学共通テスト等の大学入試改革の動向や新学習指導要領を踏まえつつ、「人間の尊厳のために」生きる人を育てるための、キリスト教精神に基づく人格教育を主軸とした6ヵ年の体系的な一貫教育の確立、校訓「高い人格・広い教養・強い責任感」の動機づけとなるよう教科教育のさらなる充実を図ります。また、これらに資するよう多様な体験的プログラムも継続します。

新型コロナウイルスの影響も踏まえ、海外研修だけでなく国内でも新たな体験が得られるよう、短期国内研修等のプログラムについて新たに検討します。

2021年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・新カリキュラムを見据えた教育活動全般の見直しなど、学校改革を推進します。
- ・女子部ネットワーク回線を増強し、構内無線 LAN 環境の授業等における本格的運用を開始します。
- ・専任教員に対し一人一台 PC 環境を整備し、校務の効率化・ペーパーレス化を推進します。
- ・北・南校舎の空調機の入替えを行います。

2021年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・大学入学共通テスト等の大学入試や新学習指導要領への対応を考えたカリキュラム編成を行います。
- ・精神的なストレスを抱えた生徒に対して、きめ細やかなケアとサポート体制を強化します。
- ・ICT環境の活用について、実践例を共有するなど学内研修を重ねていきます。
- ・第1体育館の建て替えに向け、学園内関係部署との折衝を行います。
- ・財政状況改善に向け、一般寄附募集の周知を図るとともに、経費削減に努めます。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 学校改革の推進 ★

2022年度からの新カリキュラムの実施にあたっては授業時間数増が見込まれていることから、生徒会活動や部活動などの課外活動、学校行事のあり方を全般的に見直す必要があります。同時に、教員の学習指導要領に沿った授業準備等の負担増も想定され、働き方改革の観点からも、教員の負担軽減に向けた校務分掌の見直しなど学校改革を推進します。

2. 教育・研究

(1) 構内無線 LAN 環境の授業等における運用開始 ★

GIGA スクール構想に向けて文部科学省は生徒一人一台のタブレット端末の整備をうたっていますが、新型コロナウイルスの影響もあり、計画を前倒して導入する学校が増えています。本校においても構内に設置された無線 LAN を生徒が活用できるよう、BYOD(Bring Your Own Device)方式での導入を前提に使用ルールを含めた整備を図り、調べ学習等の授業での活用実践を重ねていきます。

(2) 専任教員に対する一人一台 PC 環境の整備 ★

教員の校務軽減ならびに情報セキュリティ強化のため、新たな学園共通統合型校務支援システム（スコーレ）の運用を開始しました。今後は、専任教員に対し一人一台のノート PC を貸与し、校務の効率化を図るとともに、タブレット端末も併用しながら情報の共有化・ペーパーレス化を推進します。

3. 施設・設備

(1) ICT を活用した教育環境の整備 ★

5学年(中1～高2)のHR(ホームルーム)教室に電子黒板機能付プロジェクターが常設され(高3のみ

移動式)、多くの授業で頻りに活用されるようになりました。2021年度は、構内無線LAN環境を教員・生徒が活用できるよう、女子部ネットワーク回線の増強を計画しています。

(2) 北・南校舎空調機の入替え

北・南校舎(2006年竣工)の空調機の故障が2019年度あたりから頻発しています。修理用部品の調達も保証年限を過ぎていることから全面的な入れ替えを行う必要があります。機器の保守・点検等を考慮し、リース契約での入れ替えを計画しています。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) キリスト教精神に基づく人間観、世界観、「人間の尊厳のために」(建学の精神)生きる人となるための価値観の育成

2020年度については新型コロナウイルスの影響で、多くの教育活動の大半が中止・代替を余儀なくされました。2021年度の実施についても引き続き困難が予想されますが、可能な範囲で対応します。

宗教の授業とは別に、総合学習やHR(ホームルーム)活動、行事のなかで宗教的講話の機会を設けています。各学年の事情に合わせ、本校の指導司祭だけでなく他の修道会の神父やシスターにも依頼し、生徒たちの心の成長を促します。

中1の宿泊行事「校外教室」を「静修会」に改称し、中2の「静修会」と連動させる形での再編を図ります。中3の長崎研修旅行、高2の沖縄研修旅行の折には、現地の教会をお借りして、その地の歴史の話に耳を傾け、共に平和の祈りを捧げています。

日々の朝の聖歌とお祈りは欠かせません。また、月曜日の朝礼時には指導司祭による講話(『朝のこころ』)、毎月1回放課後に行われるミサも続けていきます。

クリスマスの時期には、全校生徒が参加するクリスマス聖式、中1の希望者が参加するクリスマス修養会、音楽部員を中心としたクリスマス聖歌隊コンサート、器楽部員有志による医療施設でのクリスマスコンサートなども大切なミッションの機会と捉え、引き続き実施します。

(2) 6ヵ年の体系的な一貫教育の確立 ★

中高6ヵ年の体系的な一貫教育の内容を科目ごとに明記した『中学学習の手引き(教科別)』・『高校学習の手引き(教科別)』をそれぞれ入学時に配付します。

また、年度初めに、学習についてのアドバイスやさまざまな学問分野の紹介、職業紹介、大学入試の仕組み等を詳述した『学年別進路の手引き』を、中3から高3に配付します。秋には、主に卒業生の社会人や大学生等によるアドバイスをまとめた『進路の手引き・別冊』を全校生徒に配付します。6ヵ年のゆったりした流れのなかで生徒たちが自らの将来をじっくりと構想できるよう、合わせて11冊の『進路の手引き』を在学中に配付します。

生徒たちが安全・安心に生活できるよう、生活指導の一環として中1では「インターネット安全・安心講座」、中2では女性警察官による「対話型防犯教室—痴漢被害等に遭わないために」、愛知県弁護士会による「いじめ予防出張授業」、高1では「ネットいじめ対策講座」を実施します。

6ヵ年の縦のつながり・交流としては、部活動はもちろん、文化祭や体育祭の行事を中高一緒に開催し、高校生有志を中1クリスマス修養会にお手伝いスタッフとして派遣しています。

6月には、全学年で芸術鑑賞会を実施します。2021年度はセントラル愛知交響楽団による公演を予定しています(これまで、劇団四季、名古屋フィルハーモニー交響楽団の公演、狂言、落語、映画等の鑑賞を実施してきました)。

高3の3学期の特別授業では、6ヵ年の集大成として、高3担当以外の教員も授業を担当し、最終学年の最終学期にふさわしい有意義なものにします。

キャリア教育の一環として、卒業生を含めて外部から講師を招き、特別授業や講演会を実施します（これまで講師に、臨床心理士、弁護士、判事、医師、TV放送編成制作局員、一級建築士、日本モンキーセンター学芸員、ジャイアントパンダ飼育係、警察署少年係、自動車メーカーエンジニア、損害保険会社人事部社員、予備校講師、様々な分野の専門家をお招きしました）。各種進路講演会の実施も検討します。

中1から中3までは「(中高一貫校向け)学力推移調査」、高1から高3までは「スタディサポート」、「外部模試」を実施し、6ヵ年を通じた系統的な学習・進路支援体制を推進します。

中高連携をより一層強化するため、2012年度に「併設型中学校・高等学校」に移行しました。そのメリットを活かし、高校の家庭科教科書の中3で購入するなど、中学の授業をより高度な内容にします。

(3) 第1体育館建て替えの検討 ★

建築基準法改正に伴い変更が生じた建て替え計画を見直すため、専門委員会を設けて、学園内関係部署とも連携・折衝しながら建築場所等立案を進めます。また、2020年度より第2号基本金の組入を開始しましたが、2021年度に急速空調機の入替えを行うことより資金計画に変更が生じたため、体育館の安全性を考慮しながら建て替え時期を見直します。

(4) 精神的なストレスを抱えた生徒に対するケア、サポート体制の強化

精神的な不調を訴える生徒が増加傾向にあることから、スクールカウンセラー(臨床心理士)の勤務を週3日に増やします。生徒の多様化に伴い、広い視野をもったサポート体制を目指して教育相談とサポート委員会を一本化し、組織名を「教育相談委員会」と改めます。各学年会と連携してケアの必要な生徒の個別なサポートは、学年会とも十分相談して組織的に取り組んでいきます。学年主任を中心とした隔週の報告会では、各学年の生徒が抱えている問題点などを共有します。教育相談委員会主任、その補佐、養護教諭、生活指導部長、教頭、副校長、スクールカウンセラーで構成される報告会も今まで通り、毎月1回開きます。また、このような問題を抱える生徒との橋渡しになっている養護教諭については、保健室の常時2人体制も継続します。

(5) 家庭(保護者)とのより密接な連携の推進

家庭との密接な連携を推進していくため、学年別保護者会、クラス別保護者会、授業参観、個別面談だけでなく、部活動の保護者会も実施します。保護者対象の講演会(2020年度は、南山大学准教授池田満先生による講演「子どもの人間関係について～親としての心構え～」を中2保護者対象に実施しました)、宗教講話も実施しています。また、学年通信・クラス通信の拡充による、学年・クラスと家庭とのより一層の連携強化も図ります。

(6) 植栽管理についての検討

校舎建築から年月が経ち、また近年の気候変動により、植栽という資本を失っていく状況にあります。対処として、校舎建築当時のコンセプトおよび植栽の状況を熟知する業者のコンサルティングを活用して費用対効果の高い、かつ教育の観点もふまえたメンテナンスを引き続き検討します。また、猛暑対策として自動灌水システムの見直しも行います。

2. 教育・研究

(1) 国際的視野の育成

新型コロナウイルスの影響で、2020年度はこれまで実施してきた3つの海外研修プログラムは中止しました。2021年度についても実施が困難であることから、「エンパワーメントプログラム」と題する新しい形の短期国内研修の実施を計画しています。本プログラムは、将来の日本を担う潜在能力の高い日本の若者を対象に、オックスフォード、ケンブリッジ、カリフォルニアなどの欧米をはじめとする大学の現役学生・大学院生を招聘し、ディスカッションなどを通じて自らのあり方・生き方について考えるものです。

(2) 男女別学の特色を生かした教育の推進 ★

愛知県下唯一の男女別学校という特色を生かすため、男子部プラスバンド部・女子部器楽部の「ジョイントコンサート」を開催します。その他、生徒自治会レベルでの交流も継続します。

(3) 特色ある教育づくり

2009 年度から世界 117 カ国が参加する文部科学省指定事業「地球学習観測プログラム(グローブ)」の指定校として GLOBE 委員会を設置し、生物・水質・大気の観測調査をしています。

2015 年度に国立研究開発法人科学技術振興機構の「中高生の科学研究実践活動推進プログラム(学校活動型)」に採択されました。学校が主体となり、学校と大学等が連携・協働し、中高生自ら課題を発見し、科学的な手法にしたがって進める探究活動の継続的な取り組みを推進するプログラムです。2018 年度でプログラムは終了しましたが、学校独自で引き続き活動を行っていきます。

理科主催の特別企画として、中 1 での動物園実習、中 2 でのプラネタリウム見学、JAXA や国立天文台による授業やさまざまな分野の研究者による「出前授業」を行います。

家庭科では、高 1 の「家庭基礎」で日本新聞協会が行っている NIE(Newspaper in Education)活動の「新聞切り抜きコンクール」への参加を継続します。また、家庭科と保健体育科が共同で 2019 年度に初めて実施した近隣の 2 つの保育園での保育実習も継続します(2020 年度はコロナウイルスの影響で中止)。

社会科や国語科主催のフィールドワーク企画も引き続き検討します(2019 年度は国語科ツアーを企画し、古都京都を訪れました)。

(4) 大学入学者選抜試験への対応

2021 年度入試から実施された「大学入学共通テスト」の導入など、大学入試改革は大きな変革期のなかにあります。特に 2025 年度入試からは、学習指導要領改訂に伴い大きな変更が予想されます。文部科学省や各種教育産業からの情報なども分析しながら、必要な対策をこれまで以上に実施します。

(5) 次期学習指導要領に向けたカリキュラムの検討

学習指導要領が中学は 2021 年度、高校は 2022 年度から改訂されます。新しい時代の学力観を見極めるとともに、女子部の独自性を失うことのないカリキュラムを作成します。そのために、各種研修会やセミナー等に参加し情報収集に努め、職場全体への周知や研修を行っていきます。

(6) 英書の多読の実施

英語科では、大学入学共通テストに向けて 4 技能(聞く、話す、読む、書く)の育成を図るため、中 1 から高 1 においては授業内、全学年で授業外の英書の多読活動を行います。また、希望者向けの朝多読や、休み時間でも使える読書室を設けます。将来的には iPad を使った多読、多聴が同時にできるようにします。2018 年度より 4 年計画で英書を計約 5,000 冊購入し、充実した多読環境を整備しているところです。

(7) キャリア・トライアル(職業体験プログラム)

2016 年度からキャリア教育の一環として、高校生の希望者を対象とした職業体験プログラムをスタートさせました。2021 年度も引き続き実施し、募集定員を拡充します。具体的には、ガイダンスを受け、次に事前学習、実際に 3~5 日間の職業体験、その後振り返りを行います。文化祭での展示発表も行います。中 3 を対象に、キャリア・トライアルの報告を含む高校生活全般や進路に関して、自分たちの経験を伝える場を設ける活動も行います。さらに、キャリア・トライアルから派生した課題解決型の職業体験プログラム(校内実施)も継続して実施する予定です。

(8) 性に関する教育

保健体育科・家庭科の授業で性に関する教育は実施していますが、中 2 と高 2 向けには、産婦人科医の方に実際に医療現場でどのような性の問題が起きているのかを、それぞれの対象学年に応じた講演をしていただき、自分の問題として考えていく機会を設けます。

(9) 教職員の研修・研究

教員の研鑽・自己点検に資するため、学校生活、学習、進路、行事等についての生徒アンケートを全学年で実施します。また、社会科教科会が積極的に行っている教員向けの授業公開を、他教科にも呼びかけて拡大し、ICTを活用した授業実践等についても情報交換を図ります。

年に2回実施している教員研修については、教職員の意見を聞きながらニーズに合ったプログラムを策定します。また、研究助成金を利用しての外部研修への参加も促します。

2020年度の教育・研究活動をまとめた『年報』31号を発行し、教員の研鑽・相互学習を促します。

(10) 南山大学・南山大学附属小学校との連携の推進 ★

高校生に向けては南山大学学園内オープンキャンパスへの参加を呼びかけ、保護者向けには南山大学キャンパス見学会を実施します。総合学習の一環としては、高1を対象に南山大学の各学部の先生による特別授業「南山大学土曜セミナー」についても引き続き実施します。また、心理人間学科の先生に依頼して2019年度から新たに始めた中2を対象としたコミュニケーションスキルアップのための取り組みも継続します。さらに、社会科主催で過去に何度か実施したことのある南山大学人類学博物館との連携によるワークショップについても、再度検討します。その他にも教育実習生、インターンシップ研修生としての南山大学の学生の受け入れや、本校教員が南山大学で教員免許状更新講習に参加するなど、大学との協力関係を継続します。

南山大学附属小学校とは、小中高協議会や同引継ぎ分科会等のみならず、双方の教員が交流・意見交換できる機会を設けていきます。

3. 社会貢献

(1) 地域清掃

近隣住民の方への感謝の気持ちも込めて、学校周辺の地域清掃を含む「全校一斉大掃除」を年に2回実施します。

(2) 募金活動

宗教活動委員会の呼びかけによる、クリスマス献金(教会を通じた世界児童福祉・国際協力援助・国内生活困窮者援助等のための献金)、および生徒自治会の呼びかけによる、学校祭収益金(バザー等の実施)の寄附(社会福祉活動・国際医療活動・私学奨学金等)の、寄附活動を続けていきます。

東日本大震災直後に始まった、教員・生徒有志が参加しての「被災地支援チャリティーコンサート」についても引き続き開催し、募金活動やチャリティーに関連した物品の販売なども行っていきます。こうした活動を通じて、他者の痛みや苦しみ、悲しみに寄り添う姿勢を育てていきます。

(3) ボランティア活動 ★

器楽部による医療施設などでのクリスマスコンサート、小百合会(主にボランティア活動を行う部)による特別養護老人ホームでの交流、催事等のお手伝い、希望者による就労継続支援事業所でのお手伝い等を計画しています。こうした部活動の活動のみならず、キリスト教精神を理解し実践するため種々のボランティア活動への参加を奨励しています。

(4) 地域貢献

バンテリンドームナゴヤ・南山大学附属小学校グラウンド等で行われている日本サッカー協会主催ユニクロ共催のJFAユニクロサッカーキッズ企画(愛知県内児童対象)に、サッカー部の生徒がボランティアで指導に参加しています。

4. その他

(1) 危機管理体制の確立

守衛室常駐体制を維持し、教員による授業中・放課後の校舎内巡回を継続します。また、不審者侵入時の緊急対応訓練を年1回、火災・地震対策のための避難訓練も年2回継続して実施します。2019年度の内部監査で指摘のあった大災害発生後の事業継続計画(BCP)についても策定し、訓練などを通じ

てブラッシュアップします。

危機管理委員会、災害対策本部、生活指導部、校内サポート委員会、いじめ対策委員会等と、外部諸機関(警察・消防署・児童相談所・医療機関)の連携を、より一層強化します。

緊急連絡等の体制については、メール配信を主軸にしています。より早く的確な内容で生徒・保護者に伝えるため、学校(送信者)の携帯端末やパソコンから、容易に発信できるシステムを維持します。生徒・保護者の個人情報(メールアドレスのみ)は、委託業者のサーバで厳重管理されています。全校一斉配信、学年やクラス、部活動ごとの配信のほか、校外行事等についても対応できるよう、きめ細かい多系統の配信にしています。また、学校からの一方向の連絡のみでなく、生徒や保護者からも応答が可能になるよう双方向配信システムも採り入れています。

沖縄研修旅行・長崎研修旅行については、緊急事態発生時の対応マニュアルを整備して迅速な対応ができるようにしています。

(2) 広報活動の充実

学内における入試説明会(5月)と学校説明会(11月)の実施、年間30回以上の外部説明会・個別相談会への参加を継続します。部活動体験会も実施し、受験生のニーズに応じていきます。また Web ページやフェイスブックのより一層の充実を図り、在校生、卒業生、家庭や地域などへ広く情報発信し、女子部への理解を深めてもらうよう努めます。

以 上

2021年度南山国際高等学校・中学校事業計画

I. 2021年度事業計画の概要

2021年度の南山国際高等学校・中学校の在籍生徒は、高校2年生と3年生だけとなりますが、国際部以来の伝統と特色を守りながら、各学年での編入生の受入れを行い、帰国生受入れ校としての社会的役割を果たしていきます。理事会が約束した「最後の一人の生徒まで、入ってよかったと思える学校」を、学園・学校が一体となって実現してまいります。なおコロナ禍の影響は今後も続くと思われまます。引き続き、安全を最優先しながら、学校運営・教育活動を行ってまいります。

2021年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・閉校後の証明書等の発行システムを、学園と連携して構築します。
- ・閉校後のモニュメント・閉校セレモニー等の準備を進めます。

2021年度の主な継続授業は次のとおりです。

- ・スコーレ（学園共通統合型校務支援システム）、“Google Classroom”（学習管理アプリケーション）、一斉メールシステム等をさらに活用していきます。
- ・帰国生の受け入れを行います。
- ・英語教育、ICT教育、個別指導等を柱に、教育プログラムを進めます。
- ・感染症対策を含め、安全で安心できる学校環境を整備していきます。
- ・PTA、卒業生、同窓会、他の単位校等との連携を強めていきます。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 閉校後を見据えて、証明書発行等のシステムを構築します。

成績処理、情報管理の徹底、業務の効率化、教育活動への活用を図ります。合わせて閉校後の記録の保存、Web ページや証明書等発行システムの構築を、法人本部と連携して具体化していきます。

(2) モニュメント・閉校セレモニー等の準備

モニュメント建設の準備を具体的に開始します。2023年3月に予定している閉校セレモニーについても、新型コロナウイルスの感染状況等を見ながら、慎重に準備を始めます。

III. 継続事業

1. 学校全体

(1) スコーレ・Google Classroom・一斉メールシステム等の活用

個人情報保護を最優先にしながら、スコーレや Google Classroom 等を活用し、ICT 教育、成績処理、双方向コミュニケーション、防災対策等の多様な面でデジタル化を進め、効率性な学校運営をめざします。

(2) 生徒募集・編入の実施

2021年度は、高等学校の2学年3クラス、計6クラスとします。海外子女教育振興財団や各企業の担当者等と連携し、Web ページや刊行物、学校説明会、日常的な編入相談等を通して、きめの細かい募集活動を行います。編入審査を年4回実施し、帰国生徒受入れ校としての社会的責任を担ってまいります。

(3) 安全で安心できる学校の実現

行政・関係機関および南山学園危機管理委員会と連携しながら、緊急時の対応マニュアルを不断に見直し、気象災害、南海トラフ大地震、Jアラート、熱中症、感染症等のリスクへの対応を行ってまいります。各家庭と情報共有を強化し、施設・設備のハード面の点検、災害時の初期対応訓練、緊急時の

防災備品や携帯用品の整備を行います。

また、キリスト教精神に基づく「いじめ防止対策基本方針」を遵守し、毎学期に実施する全校生徒アンケートも活用し、「いじめ」があった場合、迅速な対応をするともに、総合的な視点で「いじめ」を生まない学校をめざします。世界各地から帰国した生徒一人ひとりにとって、安心できる母校となり、不安や危険を感じた場合、生徒や保護者がすぐに相談できるような信頼関係を育てていくよう教職員一丸となって取り組んでいきます。SNSの普及などの生徒を取り巻く環境に対応し、小規模校のメリットを活かし、専門機関とも連携して啓発活動や研修を行っていきます。教職員による体罰は厳しく禁じています。

(4) 保健室業務・スクールカウンセリングの充実

養護教諭に加え、業務委託の看護師を保健室に配置し、生徒の傷病や精神的な悩み等に対応できるようにしています。毎週スクールカウンセラー(臨床心理士)によるカウンセリングルームを開設し、生徒だけでなく子育てに悩む保護者からの相談にも対応します。

(5) 教育全般の自己点検

全学年保護者を対象にアンケートを実施し、PTA の協力を得て学校関係者評価を行い、『南山国際ブリテン』で公開します。日常的に保護者会、PTA 活動等を通して寄せられる要望等も含め、自己点検・評価委員会等の各校務組織で分析・検討し、学校運営に反映させていきます。

(6) 南山学園内連携事業の推進

学園内の単位校と連携を進め、南山学園だからこそできる教育を実現します。南山大学と「学校推薦型選抜入試(指定校入試)」「外国高等学校卒業生等入学審査」等を通して高大連携を進めます。①南山大学外国語教育センターでの英語授業、②大学教員による出張授業・進路学習(総合学習)、③南山学園内オープンキャンパス参加、④教職員研修の講師派遣、⑤本校 PTA の南山大学見学説明会などを予定しています。また本校で使用しなくなった備品等は、段階的に他の単位校に移譲し、有効に活用します。

(7) PTA 活動との連携

PTA 予算からの「部活生徒会活動助成金」、「教育助成金」、「図書費」、「国際交流」等への助成、学校祭など各種行事参加等、会員数が減少する中であっても学校を支える重要なパートナーとして活動をしていただいています。PTA が主催する芸術鑑賞会(総合探求)は、質の高い芸術・文化に直接触れる機会となっています。「南山国際ブリテン」と「PTA だより」も合同で編集しています。

(8) 生徒表彰「校長賞」の実施

生徒が努力した成果に対して榮譽を称え、各学年から選ばれた生徒 1 名に「校長賞」を授与します。

(9) 『記念誌』の編纂

2022 年中の刊行をめざし、旧国際部もふくむ国際校『記念誌』編纂作業を行っています。

2. 教育・研究

(1) 教育環境の改善

南山学園の国際的な教育の一端を担い、帰国生徒教育の質の向上を図る教育を継続していきます。英語以外の教科においても、小規模校のメリットを活かし、個別指導を充実させ、帰国生徒の特性をより伸ばさせていくための教育を日常的に行っていきます。

(2) 宗教教育

カトリックのミッションスクールとして、キリスト教精神の涵養を図ります。全学年で宗教・キリスト教思想の授業を開講し、多言語による朝の祈り、校内ミサ、南山教会でのクリスマスミサ(2 学期終業式も兼ねる)を実施しています。

(3) 語学教育

「英語を学ぶ」だけでなく「英語で学び、表現する」のこののできる高いレベルの語学力を、すべての生徒が修得できることをめざし、次のような独自の授業プログラム実施とともに、英語検定、TOEFL等の資格取得を積極的に呼びかけています。具体的には、①習熟度別授業の展開(全学年)、②南山大学外国語教育センターでの英語の授業受講(高校3年生)、③リベラルアーツ、イマージョン授業、④TOEFL-ITP(高校2年生)、⑤ワールドプラザ(全学年)、⑥日本語弁論大会等を実施します。

(4) ICT教育・情報リテラシー

コンピュータを視聴覚教室およびメディアセンターに整備し、授業だけでなく昼休みや授業後の時間に生徒がインターネットを活用できます。2020年度より休校対応として本格導入した Google Classroom、PTAの支援により購入した Chromebook(60台)やプロジェクト等を、さまざまな授業、生徒会活動、部活動、家庭学習、個別指導、諸連絡等において日常的に活用し、アクティブラーニングを実現していきます。同時に、生活指導や情報の授業を中心に、総合的な情報リテラシーの涵養を進めます。

(5) サマースタディ(夏期集中講座)

夏期休業期間を利用し、各教科の補習・補充授業、英語検定試験対策、小論文・進路指導、入門講座や体験授業等を「サマースタディ」の名称で開講しています。

(6) 留学・国際交流

アメリカノースカロライナ州ホープウェル高校との短期留学プログラム、豊田市のダービーシャー高校生派遣プログラム等の実施は、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら慎重に検討します。

(7) 教員免許更新講習の受講支援

教員免許更新の対象となった教員に対し、「南山学園教員免許更新の際の費用負担に関するガイドライン」に基づく支援を行います。

3. 施設・設備

(1) 教室設備等

教育環境や安全性に配慮して補修を実施していきます。学校規模縮小にともない使用しない教室・施設・設備の有効活用を進めます。建築構造部だけでなく、非構造部材の安全性も引き続き点検し、必要な修繕を実施していきます。

(2) エネルギー管理委員会による省エネの検討、実施

熱中症・食中毒・感染症等のリスクを軽減できるようエアコンを適切に使用しながら、南山学園環境宣言を踏まえ、電気使用量の削減に取り組みます。

(3) スクールバス等

通学バス交友会役員会で最終年度までの運行計画に基づき、これまで以上に安全で快適な運行を行います。また、カフェテリアの営業停止後の昼食対応としては、同窓会からの寄附を活用した冷凍食品のセルフ販売や販売車等により、昼食が取れるようサポートしていきます。

4. 社会貢献

(1) 学校施設の社会的利用

施設の貸出等を実施し、①近隣の豊田市民(広域避難場所:体育館、グラウンド)、②豊田市ジュニアオーケストラ(練習場所:講堂)など、地域のニーズに応じていきます。

(2) 地域交流

新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、地域の皆さまの学校祭行事への招待・接待や、文化系部活動生徒の訪問活動、身体障がい者入所施設「とよた光の家」、その他近隣の保育園、小中学校、福祉施設の方々と交流を実践します。

(3) 同窓会活動（南山常盤会およびアルマ・マータール）

南山高中校同窓会「南山常盤会」、その下で活動する本校母校支援組織である「アルマ・マータール」と協同し、生徒、卒業生、PTA に働きかけ、閉校後も視野に入れた教育活動支援の輪を広げていきます。

以 上

2021年度聖霊高等学校・中学校事業計画

I. 2021年度事業計画の概要

南山学園の教育方針と本校創立時の建学の精神を中心に据え、多くの人々によって育まれた宗教教育・外国語教育・情操教育の3つを柱とした本校の伝統的な教育を継承しつつ、3つのポリシーを基本とした教育計画によって未来の聖霊生のために新しい時代に輝く学校となっていくことを目指します。

2021年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・新学習指導要領に基づき完成させた中学・高校の新教育課程改訂案を元に、学則の変更を進めるとともに各教科の専任教員数を点検し、今後の採用の計画を検討します。
- ・生徒が安心して活発に行事や運動ができるようにするため、第2グラウンドの整地を行い、以降4年に1回程度のサイクルで整備修繕工事を実施します。また、第1体育館の舞台照明を取得・改修します。
- ・授業料補助等の補助金業務と学納金引落業務を連携させた新たな学費管理システムを導入します。
- ・教職員用タブレット端末の校舎内利用域を拡充するため、教員用回線の無線LAN設備を増強します。
- ・広報活動や通信手段としての役割を充実させるため、聖霊高等学校・中学校のWebサイトをリニューアルします。

2021年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・校務システムを教職員全員で活用し、校務の効率化と負担軽減とを推進します。併せて校務分掌全体の組織改編について検討します。
- ・ICT教育環境整備計画（2019～2024年度）において基盤整備の充実を図ってきたことから、これらを積極的に活用するための情報教育と教科指導の実践に向けた研究を進めます。
- ・第2体育館大規模修繕は、使用実態を踏まえて一旦計画を延期し、修繕から改築までを選択肢に含めて再度慎重に検討を進めます。
- ・昨年度に大きく制度変更を行った聖霊中学校入試について、総合的に課題を洗い出して運用を洗練させ、更なる志願者確保を目指します。
- ・学園バスの財政改善に向けて、運営主体である「聖友会」と協力して運行方法や路線の見直しを積極的に検討します。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 新しい教育の構築と教育的活用 ★

文化祭・体育祭・宗教行事・式典など様々な学校行事、外来者の来校を伴うオープンキャンパスなどの広報的な企画や入試、日常の学習活動や課外活動における施設設備使用について、実施場所、実施要項などを総点検し、年間を通して教育上有効な活用方法を工夫します。また必要となる音響、映像設備備品の最適配置などを確立させます。さらに with コロナの環境に適応していくための新たな学校生活と教育環境の活用を目指します。

(2) 教育課程の改訂後の教員構成についての検討 ★

新学習指導要領に基づき、完成させた本校の教育課程の改訂案を元に、教科ごとの授業数や教員数を点検します。今後の定年退職予定者や学園内他単位からの教員の移動等による教員の年齢構成の変化に十分に配慮して今後の人事計画を検討します。

2. 教育・研究

(1) ICT 教育機器の運用と教育活動での活用の研究 ★

映像配信システム、教職員へのタブレットと教員用 PC の一人 1 台体制など、運用をはじめた ICT 教育環境について、学習指導における効果的な活用や校務における運用等について更なる研究開発を進めます。また、次期 ICT 教育環境の整備についても検討を進めます。2021 年度からは、ICT 教育環境整備計画推進のための実習経費の徴収を学年諸経費から行います。

2020 年度に配備された全教室映像配信システムを駆使して、学習指導における効果的な活用や校務における運用等だけでなく、学校行事の代替手段としてコロナ禍で想定を超えた活用をしました。この新たな経験を元に、配信範囲を拡充するなど更に有効な活用方法を検討して行きます。電子黒板（インタラクティブホワイトボード）は、継続的な活用に結びつけるため、既存の授業と組み合わせて使う特定の教員を選び授業研究を促進します。

運用開始に際して決めたセキュリティポリシーや運用マニュアルの見直しは、各部署・教科・学年などの単位で状況調査をおこない、修正を加えながら職員会議で共有を図ります。またコンピュータ委員会の発展的解消を含めた新しい組織構想をもって、「教育の情報化」の目標に照らし「何に使うか」「どう使うか」を、ワーキンググループ（ICT 教育推進 PT）を設置してより明確にしていきます。

(2) 新学費管理システムの導入

愛知県の就学支援金システム（e-Shien）と連動する新学費管理システムの導入により、学納金の納入状況管理や学年諸経費管理を効率化します。従来個別の業務を人の手で連動させていたところの補助金業務と学納金業務をこのシステムにより一体化し、人的・財政的コストを削減します。

3. 施設・設備

(1) 既存施設設備整備の検討 ★

より安心・安全な学校生活と魅力あるキャンパスづくりを進めるとともに、第 1 体育館や第 2 グラウンドなど、補修や改修を行います。中期計画には、2022 年度に第 2 体育館大規模改修計画を盛り込んでいますが、2020 年度の使用実態を検証し、改築を含めた計画の見直しを行います。

(2) 欠席連絡システムの運用 ★

欠席連絡システム運用のための職員用タブレット端末の携帯性を生かして欠席連絡の運用だけでなく、日常業務における連絡・通信端末としてより活用して行くため、無線 LAN 設備を増設して校舎内利用域を拡充します。保護者への緊急時の連絡方法としてメッセージ配信機能を更に活用していきます。システムの運用にあたっては、情報セキュリティポリシーに基づく使用規程や運用マニュアルを検証し、全教職員の情報リテラシー能力向上にさらに注力します。

4. その他

(1) Web ページリニューアル ★

セキュリティを強化しつつ、より活発な情報発信を行うため、Web ページ全体をリニューアルします。スマートフォンへの対応も意識した新しいデザインを目指します。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) キリスト教に基づく全人教育の継承と宗教教育の確立

南山学園のモットーと聖霊の建学の精神と教育理念を基礎に、宗教の授業、学年ごとに実施される朝礼、中学 1 年生の修養会から高校 3 年生の静修の日そして卒業式へと中高一貫で進められる宗教行事と、

生徒の実態や時代にふさわしい改善を常に意識しながら、本校の校風にふさわしい宗教教育の内容を確立します。そして、教員一人ひとりのことば一言にさえも本校の教育の精神が宿るように、全教職員で聖霊教育の基本精神を共有します。

(2) 学園通学バスの財政改善 ★

2020年度12月に通学バス聖友会臨時総会において、2021年度から2030年度までの段階的な通学バス聖友会会費改定が承認されました。ただし、収支改善の効果について、継続的に検証および定期的の実施することも案に含められました。財政改善は値上げだけで目標が達成できるものではないため、路線の見直し、効率化の検討も並行して実施します。

(3) 「EVE, My 青春！」の継続実施と実施場所等将来設計の検討 ★

2021年度で40回目を迎えるこの行事は、在校生・既卒生にとって誇りの持てる伝統行事のひとつです。予算面・実施場所・規模・今後の教員体制・生徒の力量低下など課題が山積していますが、継続可能な実施場所や実施形態について全力で検討し続けます。ちなみに2021年度は、2019年度と同じ愛知県芸術文化センターのコンサートホールで実施します。

(4) 校務組織改編についての検討 ★

役職人事や部署の配置および配属人数等、校務分掌全体の組織改編について検討します。各部署の役割を見直し、併せて勤務時間内での会議のあり方、部活動、学校週番、退勤時刻や校舎管理方法など、働き方改革の視点からも総点検を進めます。部活動については「部顧問配置と部活動・同好会の設置・廃止に関するルール」を検討・推進します。

具体例として、2020年度は試行的に生徒指導部と保健部を合体（業務の改革と効率化）させて運営しましたが、2022年度の完全一本化を目指して、課題の掘り起こしと調整を進めます。

また、教育職員の勤怠管理を2020年度11月から本格運用しております。試行期間から半年が経ち、勤務時間の見える化が進むうちに時間管理の概念も徐々に浸透しつつあります。ひき続き、労働時間管理や年休の計画的な取得などの基本的な部分から徐々に意識を高めていきます。

(5) 教職員必携（保存版）の改訂

2013年度に完成させた教職員必携（保存版）について、包含する様々な規定・内規の変更に伴い全面的な改訂作業を継続します。2022年度の実用化を目指して、分担をして改訂を進めています。

(6) 2022年度入試の総合的な見直し ★

これまでの入試結果を踏まえて、入試日程、入試内容、広報活動、入試制度の設計等を年度ごとに見直します。指示される学校づくりを進めるとともに生徒層の向上や安定した生徒数の確保を目指します。

(7) 学校財政の安定化 ★

学納金収入の中長期的な計画、経常費補助金の獲得、寄附金募集の継続等、財政面において収支均衡を目標として収入確保に向けて努めるとともに、本校の将来を見据えた長期的な目標に向けて、主体的な目線で中長期および単年度の事業計画立案を行っていきます。とくに広大な校地のメンテナンスコストについては、予算執行段階においても精査しつつ、支出の抑制に努めることにより学校財政の安定化を図ります。まずは改革を行った入試制度を検証し、安定した生徒（定員数）の確保と不測の事態に対応し得る財務体質を念頭に置いたシミュレーションに基づき、授業料の見直しを進めます。

2. 教育・研究

(1) 大学入学共通テストへの対応 ★

これまでの大学入試動向を踏まえつつ、大学ごとの入試情報や指導方針などを教員間で共有し、新しい時代の進路指導の在り方を全教職員の共通する指導目標に位置付けます。初年度を迎えた大学入学共通テストについては、分析と必要な対策をこれまで以上に実施していきます。

(2) 本校における中学・高校の教育課程の改訂 ★

一日の始まりの時鈴から新キャンパスでの学校生活リズムを確立し、中学・高校それぞれの教育課程を改訂します。また、高校の教育課程における選択講座や総合的な探究学習のあり方について校内での研究を進め、中学生徒募集から高校卒業後の進路指導までの六年一貫の指導の過程を検討します。

(3) オーストラリア海外研修およびアイルランド語学研修の見直し ★

オーストラリア海外研修・アイルランド語学研修は、2020年度に続き従来の形態での実施を見送ります。但し、生徒数、引率教員数、現地校滞在期間、観光地などの見直しやこれまでの参加生徒や引率教員の評価に基づいて、さらに充実した研修となるよう改善を図ります。

2020年度は、オーストラリア・メルボルンの姉妹校であるMSJ校とZoomを活用して生徒間交流を進めるなどしました。2021年度もこれを継続するとともに、さらに英語科が中心となって国内プログラムを作成し、国際交流の体験や学びの環境を提供します。

(4) 南山大学・南山大学附属小学校・学園内中学・高校との連携 ★

南山大学附属小学校から本校へ、さらに本校から南山大学への学園内一貫教育の流れを積極的に紹介し、部活動、文化活動での生徒児童間の交流や提携のみならず、教科指導などでの教職員間の人的交流などを進めます。

南山大学との協力関係では、学園内オープンキャンパスへの参加や進路ガイダンスでの説明会、心理人間学科の先生に助言をもらいながら実施されている「ラボラトリー方式の体験学習」や南山大学生による「中学チューター制」、またキャリア教育などを継続して実施していきます。

中学高校の単位校間では、学園内諸会議を通して運営上の情報等を共有してきました。また附属小学校とは進路学習の一貫として聖霊中学校の「見学会・学校説明会」を継続します。

(5) 職業体験やキャリア指導、進路指導の充実 ★

中学3年生で実施する職業体験およびハローワーク講座、高校生の活動としての校外事業所でのインターシップなど、それぞれの学年にふさわしい職業観を育成することを目標に、活動を継続します。また進路指導室、進路資料室の生徒利用に対応するため、さらに内容を充実させます。

3. 施設・設備

(1) 学園共通統合型校務システムの円滑な稼働

学校全体の情報セキュリティポリシーに基づく教職員の個人レベルでの作業に関する利用規程やマニュアル等を教職員全体で共有し、学園共通統合型校務システムの円滑な稼働と効果的な運用を進めます。

(2) 校舎の保守、環境整備 ★

施設設備の保守管理・定期点検等に必要となる経費を見極めながら、年間での保守・環境整備計画を立案します。新しい環境にも慣れてきましたので、日常を想定した改善点などのための声を集めます。

(3) ICT教育機器ならびに教職員利用PCの更新 ★

新しいICT教育機器の導入を実施し、教職員へのタブレット配備と教員用PCの一人1台体制や生徒用ICT教育機器の試験的導入を進めながら、校務における運用等や学習指導における効果的な活用についてさらに研究を進めます。まずは機器に慣れ使いこなすことでソフト面での表現の領域を広げていきます。その成果に基づいて次期ICT教育環境の整備計画を立案します。

(4) 図書館の蔵書管理

まずは生徒が自宅からでも蔵書検索ができるようにインターネット環境を整備します。次の段階として、バーコードによる書籍の貸し出しと返却の体制を整えます。夏休み頃までを試行期間とし、できるだけ2学期から運用できるようにします。併せて、すでに除却処分が決まっている書籍の処分や、開架・閉架図書の見直し作業をおこないます。仕事量に対して人員不足で時間がかかる傾向があるものの、粛々と進めていきます。

(5) 旧修道院の改修についての検討 ★

聖霊の校舎と旧修道院は接続の面で利便性が高いものの、補修や維持管理経費の必要性も無視できません。聖堂の利用を中心とした今後の活用方法や、補修・維持管理についてさらに検討します。

4. 社会貢献

(1) 募金活動 ★

聖霊降臨祭、クリスマス聖式などの宗教行事において、全校生徒による献金という形態で、聖霊会の関係する様々な事業所への支援を続けます。地球規模の自然災害など国外国内の被災地域に向けた、学年単位や生徒会などによる募金活動、UN系やNPO法人を基盤にした部活動による諸活動など、積極的に推進します。

(2) ボランティア活動 ★

夏季休暇中のボランティア活動だけにとどまらず、学校として継続的な支援活動を模索します。

学年、生徒会、部活動、個人といった資格で参加し、条件やニーズに応じて幅広く参加します。

(3) 地域との連携 ★

地元幡山地区および山口地区の自治組織や瀬戸市観光協会との連携のほか、中学3年生の職業体験などにおいても瀬戸市を中心とした事業所に協力をお願いします。また、創立記念式典での伝統行事「花いっぱい運動」では、全校生から集められた花束を瀬戸市長はじめ地域の方々や、様々な施設に感謝の言葉とともに届けます。

以 上

2021年度聖園女学院高等学校・中学校事業計画

I. 2021年度事業計画の概要

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のための危機管理が重要課題となり、通常の学校運営は変更を余儀なくされる結果となりました。その反面、衛生対策の徹底と生徒・教職員の健康管理に加えて、ICTの活用（自宅学習にClassiの積極的な利用、iPadを使つてのオンライン授業、オンライン入試説明会と動画配信など）は2020年度に目指していた改革の方向性をより明確にすることに繋がったとも言えます。2021年度も新型コロナウイルス感染防止対策は継続する必要性を認めています。しかしながら、ワクチン接種の進捗とともに感染者数減少が公的に確認されるに依りては、現在中止や縮小している活動について、段階的に再開を検討していきます。ICT活用については、新型コロナウイルス感染症の流行状況によらず、学校の教育手法の一つとして研究を続けます。

2021年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・豪雨による土砂災害対策のための調査を実施するとともに、学校の防災体制を見直します。
- ・オンラインによる国際教育の可能性を拡大させ、海外文通を学校の取り組みとして充実させます。
- ・中学棟普通教室にプロジェクターを設置します。
- ・生徒が主体的にボランティア活動に参加し、取り組めるよう、サポート体制を作ります。
- ・2022年度からの高等学校指導要領改訂に向けて、新しい学籍システムの導入に向けて準備します。

2021年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・宗教性・国際性の涵養、課題解決のための総合力の育成を目指します。
- ・ICT機器を積極的かつ適切に利用するための研究を進めます。
- ・自主的な学習習慣の定着から大学受験指導に至るまで、放課後学習支援の環境を整備します。
- ・現地研修、校内研修を通して、日本の文化や人間の尊厳への理解の深化を目指します。
- ・社会福祉施設でのボランティア活動、被災地支援のための募金活動を継続します。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 防災対策★

土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域(特別警戒区域含む)に指定されている校地の一部(登校坂その他)について、予防的対処のための調査を検討します。また学校の防災体制について、対応マニュアルの整備に努め、訓練内容も再検討します。

2. 教育・研究

(1) 国際教育の充実★

新型コロナウイルス感染により、止むを得ずMEA(Misono English Academy)をオンラインで実施しましたが、ニュージーランドの姉妹校の生徒との交流に発展しました。2021年度はオンラインによる可能性をさらに拡大します。また、中学生から希望が出た海外文通を、学校の取り組みとして充実させ、海外への興味関心をより深めます。

3. 施設・設備

(1) 管理棟・中学棟 非常用火災報知設備更新および煙感知器改修工事

災害を始めとする危機対応に備え、老朽化による誤作動や発報不具合を防ぎ、必要な動作や情報が確実に得られるべく、非常用火災報知設備の更新および煙感知器の改修工事を行います。

(2) 中学棟普通教室プロジェクター設置★

2020 年度に高校棟に設置したこと引き続き、中学棟普通教室にもプロジェクターを設置します。本校では生徒に一人一台の iPad を貸与し、生徒自らが学びの成果を発信する機会を設けています。また、自学自習を支援するツールを入れ、授業の予習・復習に取り組んだり、小グループ（6 人程度）で、調査、研究、発表を行っています。プロジェクターの導入によって、iPad の情報を黒板に投影できるようにすることで、iPad の活動領域が一段と広がります。

(3) 教員用 PC およびサーバ更新

授業での活用はもちろん、学校運営においても ICT を活用する場面が増えています。働き方改革も意識しながら、より迅速に、効率的な処理ができるよう、教員用 PC およびサーバの更新を行います。

(4) 校内 LAN 設備の調査

文部科学省の GIGA スクール構想を背景として、本校の ICT 教育の進展を図るためには、全校生徒に貸与している iPad のインターネット接続の不具合を解消し、通信品質の一層の向上が不可欠です。現況設備の接続状況を調査し、2022 年度内に校内 LAN 設備の更新実施を目標に、適切な機器選定のための情報を収集します。

4. 社会貢献

(1) ボランティア活動★

長期休暇中や自宅学習日および土日祝日などを通じて、生徒が主体的にボランティア活動に参加し、取り組めるよう社会福祉法人藤沢育成会との協力体制のもとサポート体制を作っていきます。例として毎年実施されているチャリティーコンサートのサポート、廃油石けん作りやエコたわし作りに参加することで、生徒が施設利用者の方々と触れあいながら SDGs について学ぶ機会を提供します。ただし、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、先方ともよく話し合いを行い実状に合う形で検討のうえ実施します。

5. その他

(1) 新学籍システム導入準備

2022 年度からの高等学校指導要領改訂に向けて、いくつかの校務支援システムを比較検討しながら、新しい学籍システムの導入に向けて準備します。

(2) 神奈川私学修学支援センター利用

登校困難な生徒への支援を目的とした神奈川私学修学支援センターの 2021 年度からの高校生受け入れ開始に伴い、本校における該当者がこのセンターを利用することにより、卒業を目指した学習活動が継続できるよう、情報収集と今後の利用可能性を検討します。

(3) 寄附金募集

本校における校内整備、学校生活改善に対する支援等教育環境整備を行うための新たな財源の確保として、卒業生、在校生および保護者、趣旨に賛同いただける一般の篤志家の方々等に向けて、広く寄附金の募集を開始します。

(4) 欠席等連絡受付方法の変更

従来による電話による欠席等連絡受付に加えて、2020 年 4 月から開始された Classi 欠席連絡機能サービスを導入します。保護者にとっては時間的制約を気にすることなく連絡することができるとともに、学校にとっても事務処理のミス解消し、保護者との連絡の行き違いがなくなることを期待します。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 宗教性の涵養★

年 5 回のミサ、講堂朝礼での祈りと聖歌、クリスマススタブロ、クリスマスキャロル、ロザリオの祈り、中高錬成会など、聖園で伝統の宗教行事を通して、生徒の宗教性を涵養します。

(2) 国際性の涵養★

海外研修（ニュージーランド中・長期留学・カナダ短期留学）、Misono English Academy、Advanced Class of English、海外からの留学生受け入れなどを通して、生徒の国際性を涵養します。

UPAS（University Pathway Admission Service）加盟校として、推薦入試制度を利用した海外大学進学支援を行います。進学に必要な奨学金制度についての説明会も実施します。また、在学生にはスタンフォード大学およびシリコンバレーで STEAM 教育を体験できる海外研修プログラムを紹介し、参加を促します。2021 年度は新型コロナウイルスの感染状況により、オンラインを利用した実施となる場合もあります。

(3) 留学支援のための奨学金制度

2019 年度開始のニュージーランド、Sacred Heart College, Napier での 1 年留学および 2014 年度から実施しているニュージーランドでの中期留学に、引き続き給付型奨学金を支給します。生徒・保護者への負担の軽減と、参加意欲の促進、また中学入試の広報活動への PR にもなっています。

(4) 総合力育成★

課題解決のための思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指します。中学生の総合的な学習の時間では、学びの基本技能である「調べる・まとめる・表す」の力を高めることをテーマとします。高校生の総合的な探究の時間では、課題解決の基本技能である「対話・提案・質疑応答」の力を高めることをテーマとします。

(5) ICT 活用★

各教科の特性に応じて、アクティブラーニング等の教育法を研究する中で、ICT 機器を積極的かつ適切に利用するための研究を進めます。

(6) 放課後学習支援★

自主的な学習習慣を定着させるために、教員による講習・補習の環境を整備します。また、平日 18 時までは図書館を開放し、授業の予習復習、宿題をはじめ、検定試験、大学入試に備えた学習環境を充実させます。外部業者を利用した大学生によるメンター制度の導入と教科・クラス担当者による事前指導により、より効果的な活用を促します。また、利用生徒の入退室を管理する入退室システムを導入することで、生徒がより利用しやすい環境を整えます。さらに、進路実現に向けて、高校生を対象に外部講師による希望者への大学受験指導の講座を実施します。

2. 教育・研究

(1) シラバス改良、評価方法研究、試験作成研究

2022 年度の高校学習指導要領改訂に向けて、新カリキュラムの作成と授業と評価のあり方を研究します。

(2) 補習・講習・自習★

長期休業中の補習・講習・自習について、これまでの反省点を活かすとともに、教科横断型など様々な形態の取り組みも積極的に取り入れられる環境を整えます。

(3) 現地研修・校内研修★

中学 3 年生全員が 2 泊 3 日で京都と奈良に出向き、日本の伝統文化への理解を深めるための研修を行います。高校 2 年生全員が 3 泊 4 日で長崎と平戸に出向き、「祈りと平和」について思いを

深めるための研修を行います。中学 1 年生の祈りを中心とした校内研修、中学 2 年生の鎌倉研修、高校 1 年生の「愛といのち」の研修、さらに、中学 1 年生・2 年生の、「相互尊重とコミュニケーション能力の育成を目指すプロジェクトアドベンチャー研修」によって、心と体の体験学習の取り組みを継続します。

(4) 聖園祭・球技大会

生徒会活動の一環として学校行事を継続します。球技大会委員会を中心に 2 日間、中・高別にクラス対抗で、球技大会を実施します。勝敗にとらわれず、クラス、学年の連帯感を強めることができます。また、聖園祭企画実行委員会を中心に、聖園祭を 2 日間実施します。委員会による企画・運営により、日ごろの成果を発表する機会を提供し、実践的な社会性を育む教育的効果を目指します。ただし、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、実状に合う形で検討、実施します。

(5) 芸術鑑賞教室

生徒の情操発達に資する演目の選択とその円滑な実施に努めます。

3. 施設・設備

(1) 省エネ活動・環境保全・美化活動

全校で取り組んでいる節電・節約を通じて、地球環境への負荷を意識し、自らの生活を顧みる取り組みを、継続して行います。また、聖園生全員で取り組んでいる清掃活動で、自ら進んで環境美化に努める意識を育みます。

4. 社会貢献

(1) ボランティア★

みこころ会と生徒会が中心となり、社会福祉施設でのボランティア活動、被災地支援のための募金活動（震災募金・歳末助け合い募金・共同募金）を継続して実施します。また高校 1 年生は、10 月に奉仕活動の一環として、「赤い羽根共同募金（街頭）」活動に全員参加します。聖園祭での純益金を社会福祉活動、国際協力援助のために寄附します。ただし、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、実状に合う形で検討のうえ実施します。

5. その他

(1) Web による出願

Web による出願、入学金納入に関するシステムを継続します。現金取り扱いのリスクを低減すると共に、より多くの受験生確保に努めます。

(2) 積極的な入試広報活動★

校内外の説明会・見学会・外部模試の実施、塾訪問、youtube・facebook を始めとした Web ページの充実と最新情報の発信、入試過去問題集の出版・書店販売など、定員確保のために力を尽くします。2019 年度に一新した「踏み出す人に」をイメージしたパンフレットを用いて、教育内容をより分かりやすく伝えます。

(3) 試験採点システム導入準備

試験採点の効率化および試験結果の有効活用のため、いくつかのシステムを比較検討し、導入に向け準備をします。

(4) 中学入試期間中の緊急時対応体制の整備

地震、大雪などによる試験開始日時の延期等を受験生および受験生保護者に迅速で分かりやすく伝えます。また、入試実施中の緊急事態に備え、各部署で対応方法を検討し、一元化します。

(5) 他校との交流★

南山学園単位校および県内カトリック校との交流を活発にし、校内の活性化と広報活動へつなげていきます。

以 上

2021年度南山大学附属小学校事業計画

I. 2021年度事業計画の概要

本校は、「校訓を体現する児童」「知的・精神的側面において高度に磨かれた児童」「真のリーダーシップを発揮する児童」「自らに与えられた使命を自覚する児童」の育成を目指しています。2021年度もこの目標に向け、全学年にわたり、家庭および地域との教育連携を得ながら、一人ひとりの児童を慈しみ深く、時に厳しく、育てます。具体的な手立てについては、2021年度は新しい教育課程に基づいて「真教育」をさらに発展させていきます。本校が南山学園共通の教育モットー「人間の尊厳のために」を実現するために存在していることを忘れず、児童がいっそう生き生きと学習に取り組み、学校生活を送ることができるようにします。

2021年度の新規事業は次の通りです。

- ・4年生以上の1人1台タブレット端末の活用を推進します。
- ・St. Brigid's Catholic Primary School との姉妹校提携を準備します。

2021年度の主な継続事業は次の通りです。

- ・「南山小学校ならではの学習」を展開します。
- ・学園内連携推進協議会のもと、大学・高校・中学との連携の強化を図ります。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 4年生以上の1人1台タブレット端末の活用推進

2020年度の103台のiPadを利用した教育実践をもとに、4年生以上で1人1台iPadを活用した学習を推進していきます。「タブレット端末の利用によって、写真や図形を自在に活用しながら課題をまとめることができる。」「お互いの意見を述べるだけでなく、タブレットで見せることによって議論も理解も深まる。」などのメリットを活かしていきます。

(2) St. Brigid's Catholic Primary School との姉妹校提携に向けて

第6学年で実施している海外研修(シドニー)では、隔年で「St. Brigid's Catholic Primary School」との交流を行っています。持続的に相互交流活動を実施していくことで一致しており、「Our Lady of the Angels Primary School (2019年度姉妹校提携校)」に引き続き、今後、「St. Brigid's Catholic Primary School」とも姉妹校提携を結ぶ予定です。姉妹校提携に向けて準備を進めます。

(3) 宿泊学習に代わる校外学習の実施

新型コロナウイルス対策のため、宿泊学習を中止しています。これに代わる校外学習について調査・準備を進めます。

III. 継続事業

1. 学校全体

(1) 家庭との連携

「かけがえのないあなたと私のために」の理念を実現するために、誰に対しても受容的である学校風土をつくることに努めています。そのため、多方面から講師を招いて講演会を行います。

教育的な配慮が個別に必要な児童に対しては、家庭との連携を積極的に図り、継続的な面談による支援を行います。

保護者への連絡を丁寧に行い、保護者との連携をさらに深め、児童の学校生活や家庭生活がともにより豊かなものとなることをめざします。学校の考えをよりよく理解していただくとともに、保護者の考えも理解できるようにします。

2. 教育・研究

(1) 学習指導

2018・2019年度に開催した「真教育」研究会（研究テーマ「『あなたと私』をいかし学び合う授業の創造」）の経験を生かして、2020年度は、一人ひとりが「真教育」の精神に根ざした学習指導の具現化を図るために、個人研究に取り組みました。また、新しい学習指導要領のもと、「わかる」「できる」「考える」すなわち、「学ぶ」喜びを感じられる授業づくりを目指しました。2021年度も引き続き、日々の授業の中で、児童一人ひとりが互いの良さや持ち味を尊重しながら、学びを深めていく力と姿勢を育む学習指導のあり方を探究していきます。また、よりきめ細やかに一人ひとりの学びの状況に目を向け、個別最適化された学びの実現を目指します。

(2) 英語教育

2020年度は、高学年の授業時間の変更（20分から45分へ）に伴い、指導内容の適正化や系統化を図ったカリキュラムの改善を行いました。2021年度は、その有効性と改善点を、授業実践を通して確かめ、安心・安全に学ぶべく、授業や家庭での学習にさらなるICTの活用を積極的に取り入れます。復習のための教育的なゲーム等の配信にも引き続き取り組みます。コミュニケーション能力の育成と実践の場で活用できる姿勢・能力の育成を一層重視した指導について、研究的な実践を積み重ねていきます。また、英語に触れられる環境づくりを意識し、英語科教員との交流の場を授業時間以外にも多様に展開します。

(3) 海外研修旅行と学校間交流

国際的視野の育成および国際性涵養の一環としての研修旅行や、海外の学校との交流の実施を継続しています。2019年7月には、2017年度に交流した学校「Our Lady of the Angels Primary」を本校児童18名が訪れ、授業への参加、ホームステイ、現地の方との交流等を行いました。姉妹校提携の調印も行いました。2021年は、2018年度に交流した学校である「St. Brigid's Catholic Primary School」との交流に向けて準備を継続予定です。

2019年度には台湾聖心小学校から本校への訪問があり、行程を改善し、一層の協力関係を築くことができました。2021年度は、オンラインでの交流を実施する予定です。姉妹校として、安定した協力関係を築きます。

(4) 生活指導

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、2021年度も世の中の状況を見ていながら、感染予防対策がいつでもできるよう準備をしておく必要があると考えています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染防止対策として、児童の動線確保、第2保健室の設置、弁当ランチへの変更、手洗い・消毒、マスク着用の徹底等の対応を行いました。新型コロナウイルス感染症が長く続くと児童も気が緩みがちですが、その都度、状況に合った指導を続けていきます。

また、生活時程が改定されましたが、特に1限後、3限後、5限後の休み時間の過ごし方に落ち着きのない児童の様子が見られます。具体的に生活の重点目標を示し、児童が安全な学校生活を送ることができるようにしていきます。

(5) 中学接続に係る取り組み

2020年度も引き続き、人間の尊厳の推進者として児童が成長できるよう教育活動を行いました。目指す子どもの姿を家庭とともに確認し、家庭との連携を図りながら、中学進学に向けての話し合いを進めてきました。そこでは、必要な学力や生活面での資質についても触れるだけでなく、家庭に寄り添うことを大切にしながら話し合ってきました。2021年度も中学接続について、2020年度同様に計画的にアプローチし、児童自身の意識改革と家庭との連携、および個別指導に更に力を入れ、きめ細かな対応

ができるようにしていきます。

(6) 大学・高校・中学との連携

学園内連携推進協議会のもと、小中高協議会や小学校・大学連携協議会で互いに共通理解を図っています。2021年度入学試験では、これまで以上に多くの大学の先生方に、面接官としてご協力いただきました。学生による入試業務補助も継続しています。一方、新型コロナウイルス感染拡大を受け、宿泊学習・校外学習での訪問や生徒クラブによる演奏披露、単位校見学、南山大学留学生の小学校訪問などはじめ、縮小したり、見送ったりした事業も多々ありました。

2021年度も感染状況を見ながら、適切な時期に適切な方法で連携事業を推進します。また中学・高校教員との合同研修会についても検討していきます。

(7) 児童の自治的活動

静修やクリスマス会に向けた活動では、各学年やクラスでアイデアを出し合い、学校生活を向上させたり、ペア学年のつながりを深めたりする取り組みをすることができました。「スポーツフェスティバル」や「6年生を送る会」でも、同様な姿が見られました。2021年度は、これまでの活動に加え、代表委員会が中心となって創意工夫した活動を計画し、縦割り活動の充実に取り組みます。

(8) 児童の安全の確保

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自動車での登下校を認めてきました。自動車での送迎で苦情もありましたが、その都度対応し、次第にマナーを守ってくださるご家庭が増えたのではないかと思います。

また、1年生の交通安全教室や色別下校班会が、新型ウイルス感染拡大防止のため中止になりました。児童の登下校のマナーについては、指導が徹底されませんでした。2021年度は、引き続き、保護者会わかみどりの方々に協力を得ながら児童の安全を図ります。

(9) 教師力の向上

2020年度は、前年度までの「真教育」研究会の経験をもとに、教員一人ひとりの自発性・主体性を生かすことと、日々の授業を充実させることを重視した個人研究を進めました。その中で明らかになった成果と課題をふまえて、2021年度も個人研究を積み上げ、授業力をさらに高めていきます。それぞれの研究内容の交流を、教科内に限らず様々なメンバーで行うことで、新たな気づきを得られるようにします。また、2021年度より、4年生以上の児童にタブレット端末を持たせるようにします。新たな学習環境を意味あるものにするために、ICTを効果的に活用できるようにするための研修を行います。これまで大切にしてきた「真教育」に根ざした学びを実現するためのICTの効果的な活用方法を探ることを通して、「南山小学校ならではの学び」の発展に向けて、視野を広げます。

3. 施設・設備

(1) 校内施設の改装

地下に休憩室や倉庫を整備し、労働環境の改善を図ります。

4. その他

(1) 広報活動

2020年度は、Webページのリニューアルを行いました。また、幼稚園・保育園対象の雑誌に学校紹介の記事を掲載したり、学校説明会の折り込み広告を出したりすることも継続して行いました。入試情報誌や新聞に加え、名古屋市生活情報誌などにも媒体を広げ、積極的な広報を手がけると共に、年中幼児保護者対象の学校説明会や単位校合同の「トワイライト合同相談会」で、幅広い保護者層に働きかけました。

リニューアルしたWebページを活用して本校への関心をさらに広めると共に、より一層本校の教育活動を知っていただくために学校案内パンフレットや学校紹介動画を見直し、よりよい内容になるよう改訂していきます。2021年度も新規メディアの開拓をしながら、積極的な発信を心掛けます。

(2) 保護者への教育相談の広報および教育相談事業

2021年度も、教育相談担当者へ教育相談予約ができる体制、南山大学保健センターから助言を受けられる体制を継続します。さらに、南山大学人間関係研究センターと連携し、子育て支援講演会と子育て支援グループの会合を定期的実施します。継続している事業のため、保護者の教育相談予約に対しての認知度も高く、利用者が増えてきています。

また、子育て支援講演会を開催し、子育て支援グループについても再募集します。教育相談活動についてもさらなる充実を図ります。

(3) 地域との連携

2020年度は新型コロナウイルスの影響で連携が縮小していましたが、それ以前では、アフタースクールのリコーダー講座や箏講座、聖歌隊が地域の祭りで発表を行ったり、商店街の方に地域清掃に参加していただいたりするなど、「いりなか商店街」や「八事商店街」との連携が定着しています。「南山小見守り隊」も地域の方の新規登録を継続して募集します。

生活科や社会科の学習なども地域の方とふれ合う活動を大切にし、児童の地域への感謝の気持ちが高まることをめざします。地域社会の一員としての奉仕の心や地域を愛する心も育みます。このことが、児童の安全確保にもつながると考えます。地域の小学校とも連携し、地域社会の中で共に児童を育てます。

以 上

2021年度聖園女学院附属聖園幼稚園事業計画

I. 2021年度事業計画の概要

「新幼稚園教育要領」の改正で、『より良い学校教育を通してより良い社会を創る』を目標とする社会に開かれた教育課程とすることになりました。より良い社会を創るために、新たな課題に挑戦し、共同で解決していく力を身につけさせます。そのために自立心・道徳心・思考力を養い、言葉によって伝える力をつけるなどの園児個々の能力を高めていく環境作りを整備します。

また、学園共通の教育モットーである「人間の尊厳のために」を実現する取り組みを、引き続き横断的かつ縦断的に実現します。

なお、園児の確保のために、預かり保育・プレ保育・満3歳児受け入れなどの見直しと、課外活動を含む教育活動の再考をし、併せて適切な広報活動を行うことで対処します。

新型コロナウイルス感染状況を注視し、これまで行ってきた事業全体あるいはその実施方法を見直す必要があるかと思いますが、園児をはじめ、教職員および保護者の安全・安心を心掛けながら、可能な限りこれまでの内容を基本とする事業計画を、以下のとおり進めます。

2021年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・園児の創造力や感性を育み、共同性を身につけさせることを目的に、拡張した園庭の更なる活用方法を構築します。
- ・将来の多様化するグローバル社会に柔軟に対応できる素養を培うために、地域社会やカトリック的雰囲気を感じ取る機会を作ります。
- ・より安全・快適な環境で保育を行うための、外壁修繕、排水管洗浄調査および2階サッシ結露対策工事を行います。
- ・Web ページの活用と広報ツールを工夫しながら常に新しい教育内容や幼稚園の情報を発信し、園児募集に努めます。
- ・バス位置情報アプリを活用し、運行遅延によるスクールバス利用者の負担軽減を図ります。

2021年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・新型コロナウイルス感染防止を含めた、園児の安全・安心を守るための危機管理体制を継続します。
- ・聖園女学院高等学校、聖園女学院附属聖園マリア幼稚園との教育連携を継続します。
- ・保護者との協力体制をより一層深め、子育て支援の援助を継続します。
- ・クリスマス献金や老人ホーム訪問など、社会貢献や地域貢献を継続します。

II. 新規事業

1. 教育・研究

(1) 知的理解教育の促進

幼児教育において、季節の行事は重要な役割を担っています。2021年度においては、雛人形を整備し、桃の節句を通し、より興味・関心が持てるよう教育に取り入れます。

(2) 宗教性教育の促進

イエスの降誕を表現する劇（聖劇）において使用する衣装を新しくして、園児の表現力を培うと共に、神の愛を知り、すべての人を愛する心を育みます。

(3) 戸外遊びの充実

2019年度の園庭整備事業完了により、園庭が拡張されたことを受け、多人数での体育遊びの導入など戸外における遊びや活動の充実を図ります。

2. 施設・設備

(1) 外壁修繕、排水管洗浄調査および2階サッシ結露対策工事

園舎建築後30年が経過し老朽化が進む中、より安全・快適な環境で保育を行うために、外壁修繕、排水管洗浄調査および2階サッシ結露対策工事を行います。

3. その他

(1) Web ページ開設による広報活動の充実

2020年度に本園独自のWeb ページを開設しました。教育活動や行事などの新しい情報を常に発信し、園児募集を始め、教職員の採用にも活用します。

(2) バス位置情報アプリの活用によるスクールバス利用者の利便性の向上

2020年に導入したバス位置情報アプリを活用し、運行遅延した場合のスクールバス利用者の待機時間の削減を図り、スクールバス利用者の負担軽減および効率的な運行に努めます。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 教育プログラムの見直しの継続

本園の教育目標は、キリスト教の教えの世界観に基づき、学園共通の教育モットーである「人間の尊厳のために」を尊重し、幼児期に必要な心身の調和の取れた人間の育成を目指しています。新たな課題に挑戦し、幼児の幅広い能力を高めていく環境作りを継続していくと共に、幼児の体力増進に向けて一層の体育強化に取り組みます。また、国際性の涵養のため英語を他者理解のツールとして楽しく学べる環境作りを引き続き行うために教育プログラムの充実を図ります。また、学園内連携として、聖園女学院高等学校や聖園マリア幼稚園との交流を引き続き行い、総合学園だからこそできる活動を一層深めます。

(2) 保護者との協力体制

社会情勢が混沌とした傾向にある現代だからこそ、聖園幼稚園の教育方針をクラス懇談会や個別面談などの機会を通してきめ細かく伝え、園と家庭の協力により「心の通い合うつながり」をもって、子どものより良い育ちを援助していく体制を続けます。

(3) 危機管理体制の継続

園児の安全確保のために、今後も来園時や送迎時における保護者カードを携帯するよう保護者へ要請します。また、新型コロナウイルス感染症対策については、2020年度に整備した次亜塩素酸空間除菌脱臭機や小型オゾン除菌・消臭機、加湿器などを今後も活用し、消毒などの日々の取組みも含め継続します。

(4) 子育て支援に関する援助

保護者の要望を受け導入した預かり保育や給食提供、満3歳児受け入れを今後も継続し子育て支援を行います。預かり保育では、家庭教育の温かさを保ちながら、園児に無理のないカリキュラムに沿った活動を展開します。また、給食については、園児の健康や安全面に配慮した提供を継続します。

2. 教育・研究

(1) 絵本の充実

絵本を充実させ、貸し出しを行うことで、園だけでなく家庭でも多くの作品に触れさせ、感性や思考力の基礎を培います。

3. 社会貢献

(1) プレ保育の実施

2019年10月より未就園児とその保護者を対象にプレ保育を開設しました。保護者が子育ての悩み

を保護者同士で分かち合い、園の教員に相談する場として、実施を継続し、子育てにかかる地域のサポーターとして機能することを目指すとともに、次年度の入園につなげます。

(2) クリスマス献金

「世界のお友だちのために」とクリスマス献金を行うことで、世界には恵まれない子どもたちがいることを知ることや、自らの献金により救われる命があることと命の大切さを学ぶことで、社会的視野を広げる教育を続けます。

(3) 勤労感謝

スクールバスの運転手や地元の警察官、地域の清掃車の職員の方々などへの感謝を、自分たちの作品を贈るという形で表しています。日常生活は多くの方々の陰の力で成り立っていることに気づき、感謝する気持ちを育む教育を続けます。

(4) 修道院への訪問

聖心の布教姉妹会修道院へ園外保育などで訪問します。「いつでも どこでも だれとでも」というカトリックの雰囲気を感じ、纏うことで、将来の多様化するグローバル社会に柔軟に対応できる素養を培います。

(5) 老人ホームへの訪問

老人ホームへ訪問し、歌の発表のプレゼントを行っています。地域の方々とのふれあいを通して、他者の喜びが自らの喜びへとつながることで、他者のために生きるという将来のキャリア教育に繋がります。

(6) エコキャップの回収

「世界の子どもにワクチンを」という願いのもと、家庭からの協力を得て使用した飲料水のキャップを回収し寄附を行っています。自分とは違う環境で生活している子どもたちが世界にいることを知り、自分に何ができるかを考えさせる教育を続けます。

以 上

2021年度聖園女学院附属聖園マリア幼稚園事業計画

I. 2021年度事業計画の概要

子ども・子育て支援法の改正により2019年10月から幼児教育が無償化されたため、保護者は保育料の高低にかかわらず幼稚園・保育園選びができるようになりました。このため、本園の特色を最大限に活かすことで他園との差異化を図ることが重要となっていること、また他園との違いを知っていただくことが必要であると考えています。

本園の特色は、「おいのり・親切・がまん・ありがとう」を大切にしよう園児に伝えるとともに、心身のバランスのとれた成長を促すために園児一人ひとりを育てることを心掛けていきます。また、学園共通のモットーである「人間の尊厳のために」を心にとめ、教職員一同、志を一つにして保育の質の向上を心掛け、園児と保護者の心に寄り添う保育を目指します。

新型コロナウイルス感染状況を注視し、これまで行ってきた事業全体あるいはその実施方法を見直す必要があるかと思いますが、園児を始め、教職員および保護者の安全・安心を心掛けながら、可能な限りこれまでの内容を基本とする事業計画を、以下のとおり進めます。

2021年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・軒天井の破損が目立ち始めており、剥落を防ぐために、下がり天井部の改修工事を行います。
- ・Web ページの活用と広報ツールを工夫しながら常に新しい教育内容や幼稚園の情報を発信し、園児募集に努めます。

2021年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・園児および教職員の安全・安心を守るための新型コロナウイルス感染防止対策を継続します。
- ・子育て支援事業としての未就園児対象「ひよこらんど」を継続し、園児募集に繋げていきます。
- ・園児の日頃の活動を動画撮影し、修道院・シニアホームで上映する機会を作ります。
- ・預かり保育を充実させるために、時間延長や園舎の空きスペースの活用および増築等、総合的な計画を検討します。
- ・満3歳児の受け入れを強化し、将来の園児確保に努めます。

II. 新規事業

1. 施設・設備

(1) 園舎下がり天井部改修工事

園舎老朽化と暴風雨の影響により、軒天井の破損が見られるようになり、剥落防止のために改修工事を行います。

2. その他

(1) Web ページ開設による広報活動の充実

2020年度に本園独自のWeb ページを開設しました。教育活動や行事などの新しい情報を常に発信し、園児募集を始め、教職員の採用にも活用します。

III. 継続事業

1. 学校全体

(1) 新型コロナウイルス感染防止対策の継続

2020年度に整備した次亜塩素酸空間除菌脱臭機や小型オゾン除菌・消臭機、加湿器などを今後も活

用し、消毒などの日々の取組みも含め継続していきます。園医との連携も強化し、園での対策や保育の様子を、タイムライン等を利用して発信すると共に、園児や保護者が安心した園生活を送れるように努めます。

2. 社会貢献

(1) 子ども子育て支援事業「ひよこらんど」の開催（動画配信）

未就園児対象「ひよこらんど」の2020年度参加者の過半数が2021年度に入園する予定であることから、この事業の存在が園児獲得に大きく貢献していることが分かります。同時に、新型コロナウイルス禍で外出もままならない中、家庭でどのように過ごしたらよいか悩んでいるという保護者の声が聞かれます。未だ幼稚園への来園が難しい状況において、動画を配信することで、家庭にいながら少しでも幼稚園の雰囲気を感じて親子で楽しむことができる場や、子育ての悩み相談をしやすいきっかけを提供し、内容を充実させます。

(2) 園児の活動の動画撮影と上映

新型コロナウイルス感染防止の観点から、聖心の布教姉妹会修道院・シニアホームを訪問することを控える代わりに、園児の日頃の活動を動画撮影し、修道院・シニアホームで上映する機会を作ります。

3. その他

(1) 預かり保育の充実

預かり保育の実施が、園児確保の大きな要因になっています。これまでの実績とこれからのニーズを踏まえながら、時間延長や園舎の空きスペースの活用、また預かり保育用園舎増築の必要性について引き続き検討します。

(2) 満3歳児保育

これまで、現在の在園児を鑑みながら「在園児の弟妹」という条件で変則的に受け入れてきましたが、より多くの未就園児と早い段階でかかわりを持つことが将来の園児獲得に有効と考え、入園時期を5月からとして、満3歳児の受け入れをより強化します。

以 上

